

ヒ首 合口	1	【アイクチ】に鏢
痘痕	2	【アバタ】も靨
鮫鱈	3	【アンコウ】の待ち食い
風靡	4	一世を【フウビ】する
鷓蚌	5	【イツボウ】の争い
殷鑑	6	【インカン】遠からず
有卦	7	【ウケ】に入る
鴛鴦	8	【エンオウ】の契り
暖氣 噫氣 噯	9	【オクビ】にも出さぬ
貉 貉	10	同じ穴の【ムジナ】
評定	11	小田原【ヒョウジョウ】
愛嬌 愛敬	12	男は度胸女は【アイキョウ】
褌	13	帯に短し【タスキ】に長し
脛	14	親の【スネ】を齧る
隗	15	【カイ】より始めよ
刮目	16	【カツモク】して相待つ
画餅	17	【ガベイ】に帰す
閻魔	18	借りる時の地藏顔濟す時の【エンマ】顔
邯鄲	19	【カンタン】の夢
艱難	20	【カンナン】汝を玉にす
管鮑	21	【カンポウ】の交わり
槿花	22	【キンカ】一日の栄
琴瑟	23	【キンシツ】相和す
檄	24	【ゲキ】を飛ばす
肯綮	25	【コウケイ】に中たる

沽券 估券	26	【コケン】に関わる
鱒	27	【ゴマメ】の齒軋り
賽	28	【サイ】は投げられた
垂涎	29	【スイゼン】の的
霹靂	30	青天の【ヘキレキ】
俎上	31	【ソジョウ】の肉
蓼	32	【タデ】食う虫も好き好き
端倪	33	【タンゲイ】すべからず
鼈	34	月と【スッポン】
拱	35	手を【コマヌ】く
恢恢	36	天網【カイカイ】疎にして漏らさず
螻蛄 螳螂 螳螂 螳螂 螳螂	37	【トウロウ】の斧
馬謖	38	泣いて【バシヨク】を斬る
蛄蝓	39	【ナメクジ】に塩
鑿	40	【ノミ】と言えは槌
鼯鼠 鼯鼠 鼯鼠	41	【ヒイキ】の引き倒し
顰 顰	42	【ヒソ】みに効う
牛蒡	43	人の【ゴボウ】で法事する
禪 犢鼻禪	44	人の【フンドシ】で相撲を取る
驕奢	45	富貴は【キョウシャ】を生ず
蜉蝣	46	【フユウ】の一期
刎頸 刎頸	47	【フンケイ】の交わり
遑	48	枚挙に【イトマ】がない
蛻	49	【モヌケ】の殻
玻璃	50	瑠璃も【ハリ】も照らせば光る

縊	51 藁にも【スガ】る
阿吽	52 【アウン】の呼吸
喇叭	53 法螺と【ラッパ】は大きく吹け
正鵠	54 【セイコク】を射る
先鞭	55 【センベン】を著ける
北叟	56 【ホクソ】笑む
臍	57 【ホソ】を噬む
杵柄	58 昔とった【キネヅカ】
勿怪 物怪	59 【モツケ】の幸い
生簀	60 【イケス】の鯉
韋駄天 韋陀天	61 【イダテン】走り
乾坤	62 一擲【ケンコン】を賭す
千鈞	63 一髮【センキン】を引く
梲	64 【ウダツ】が上がらぬ
蘊蓄 蒞蓄	65 【ウンチク】を傾ける
霍乱 瘧乱	66 鬼の【カクラン】
蝸牛	67 【カギユウ】角上の争い
黴	68 【カビ】が生える
久闊 久濶	69 【キュウカツ】を叙する
訾咳	70 【ケイガイ】に接する
蟋蟀	71 【ケイコ】は春秋を知らず
後顧	72 【コウコ】の憂い
後塵	73 【コウジン】を拝する
浩然	74 【コウゼン】の気を養う
糊口 餬口	75 【ココウ】を凌ぐ

鋙	76	子は【カスガイ】
御覧	77	細工は流流仕上げを【ゴロウ】じろ
齒牙	78	【シガ】にも掛けない
絡 紮	79	十把一【カラ】げ
鎚	80	【シノギ】を削る
秋波	81	【シュウハ】を送る
春宵	82	【シュンショウ】一刻直千金
霄壤	83	【ショウジョウ】の差
糟糠	84	【ソウコウ】の妻
芍薬	85	立てば【シャクヤク】座れば牡丹
掌	86	【タナゴコロ】を反す
掉尾	87	【チョウビ】の勇を奮う
辻褄	88	【ツジツマ】を合わせる
嬾 嘸	89	【カカア】天下に空っ風
美禄 美祿	90	酒は天の【ビロク】
暖簾	91	【ノレン】に腕押し
肺腑	92	【ハイフ】を衝く
薔薇 薔	93	刺の無い【バラ】は無い
ヒ箸	94	【ヒチョ】を失う
平仄	95	【ヒョウソク】が合わない
篩	96	【フルイ】に掛ける
辺幅	97	【ヘンプク】を修飾する
草臥	98	骨折り損の【クタビ】れ儲け
溜飲	99	【リュウイン】が下がる
耳朶	100	【ジダ】に触れる

啖呵 啗呵	101	【タンカ】を切る
呱呱	102	【ココ】の声をあげる
炯炯	103	眼光【ケイケイ】として人を射る
埒	104	【ラチ】が明く
臺	105	【トウ】が立つ
灰燼	106	【カイジン】に帰す
言質	107	【ゲンチ】を取る
叩	108	財布の底を【ハタ】く
涅槃	109	【ネハン】に入る
踏鞴 踏鞴	110	【タタラ】を踏む
印綬	111	【インジュ】を解く
胼胝 胼胝	112	耳に【タコ】ができる
鍍 鍍金	113	【メッキ】が剥げる
膾炙	114	人口に【カイシャ】す
伸	115	【ノ】るか反るか
三遷	116	孟母【サンセン】の教え
与太	117	【ヨタ】を飛ばす
益体	118	【ヤクタイ】も無い
棹	119	流れに【サオ】さす
袂	120	【タモト】を分かつ
撚 綫	121	【ヨ】りを戻す
獮 獮	122	【バク】の札
鬻鬻	123	【ヒンシュク】を買う
斧鉞	124	【フエツ】を加える
覆車	125	【フクシャ】の戒め

分陰	126 【フンイン】を惜しむ
弥立	127 身の毛が【ヨダ】つ
外方	128 【ソッポ】を向く
凶南	129 【トナン】の翼
螺子 螺旋 捻子 振子 振	130 【ネジ】が緩む
烙印	131 【ラクイン】を押される
溝	132 【ドブ】に金を捨てるよう
怪力乱神	133 【カイリョクランシン】を語らず
点睛	134 画竜【テンセイ】を欠く
熱	135 【ホトボリ】が冷める
社稷	136 【シャシヨク】の臣
無辜	137 【ムコ】の民
計 果 抄	138 【ハカ】が行く
箍	139 【タガ】が緩む
竈 竈 爨	140 【カマド】を一つにする
埒 蜷局	141 【トグロ】を巻く
阿漕	142 【アコギ】が浦に引く網
齎	143 寇に兵を藉し盗に糧を【モタラ】す
雖	144 中たらずと【イエド】も遠からず
鏤	145 脂に画き氷に【チリバ】む
稗	146 粟とも【ヒエ】とも知らず
帷幄	147 【イアク】の臣
毬栗	148 【イガグリ】も内から割れる
矧	149 戦を見て矢を【ハ】ぐ
菖蒲	150 何れ【アヤメ】か杜若

鮑	151 磯の【アワビ】の片思い
貂 黄鼬	152 鼬の無き間の【テン】誇り
一饋	153 【イッキ】に十たび起つ
襖褌	154 生まれぬ先の【ムツキ】定め
痼疾	155 煙霞の【コシツ】
鴻鵠	156 燕雀安んぞ【コウコク】の志を知らんや
猿猴	157 【エンコウ】月を取る
豌豆	158 【エンドウ】は日陰でもはじける
渺茫	159 往事【ビョウボウ】として都て夢に似たり
鸚鵡	160 【オウム】能く言えども飛鳥を離れず
畚	161 煽てと【モッコ】には乗り易い
骸骨	162 【ガイコツ】を乞う
睚眦 睚眦	163 【ガイサイ】の怨み
亥豕	164 【ガイシ】の誤り
海棠	165 【カイドウ】睡り未だ足らず
華胥	166 【カシヨ】の国に遊ぶ
揉	167 片手で錐は【モ】めぬ
罫	168 狩人【ワナ】にかかる
嚙 啖 啖	169 勸学院の雀は蒙求を【サエズ】る
閑睢	170 【カンシヨ】の化
邯鄲	171 【カンタン】の歩み
枳棘	172 【キキョク】は鸞鳳の棲む所に非ず
鸞鳳	173 枳棘は【ランポウ】の棲む所に非ず
一簣	174 九仞の功を【イッキ】に虧く
九仞 九仞	175 【キュウジン】の功を一簣に虧く

狂瀾	176 【キョウラン】を既倒に廻らす
駑馬	177 騏驎も老いては【ドバ】に劣る
葦酒	178 【クンシュ】山門に入るを許さず
薰蕕	179 【クンユウ】は器を同じくせず
溪壑 谿壑	180 【ケイガク】の欲
鬪	181 兄弟牆に【セメ】げども外其の務りを禦ぐ
吝嗇	182 儉約と【リンショク】は水仙と葱
慷慨 慷慨	183 【コウガイ】死に赴くは易し
膠漆	184 【コウシツ】の交わり
狡兎 狡兔 狡兔	185 【コウト】死して良狗烹らる
竹帛	186 功名を【チクハク】に垂る
蝙蝠	187 【コウモリ】も鳥のうち
黄粱	188 【コウリョウ】一炊の夢
糟魄 糟粕	189 古人の【ソウハク】
膠	190 琴柱に【ニカワ】す
宵拵	191 小舟の【ヨイゴシラ】え
蒟蒻	192 【コンニャク】で石垣を築く
崑崙 崑崙	193 【コンロン】火を失して玉石俱に焚く
囁	194 【ササヤ】き千里
一轂	195 三十輻【イッコク】を共にす
咫尺	196 【シセキ】を弁ぜず
舐犢	197 【シトク】の愛
狐狸	198 戎馬を殺して【コリ】を求む
鷓鴣	199 【ショウリョウ】深林に巢くうも一枝に過ぎず
蜀犬	200 【シヨッケン】日に吠ゆ

蝨 虱	201 【シラミ】を捫る
尺蠖	202 【セツカク】の屈するは以て信びんことを求むるなり
蝮蟻	203 千丈の堤も【ロウギ】の穴を以て潰ゆ
滄海	204 【ソウカイ】の一粟
滄海	205 【ソウカイ】変じて桑田と成る
惻隱	206 【ソクイン】の心は仁の端なり
乃公 酒公 酒公	207 【ダイコウ】出でずんば蒼生を如何せん
撥 桴	208 太鼓も【バチ】の当たりよう
銜	209 玉を【テラ】いて石を賈る
社稷	210 民を貴しと為し【シャシヨク】之に次ぐ
竹帛	211 【チクハク】の功
蜘蛛	212 【チチュ】が網を張りて鳳凰を待つ
晦朔	213 朝菌は【カイサク】を知らず
箕	214 爪で拾って【ミ】で零す
棣鄂	215 【テイガク】の情
羝羊	216 【テイヨウ】藩に触る
纜	217 出る船の【トモヅナ】を引く
椽大	218 【テンダイ】の筆
貂 黄鼬	219 【テン】なき森の鼬
刀俎	220 【トウソ】魚肉の際
蹊	221 桃李言わざれども、下自ら【ケイ】を成す
駑馬	222 【ドバ】も十駕
蝙蝠	223 鳥なき里の【コウモリ】
蝮蟻	224 吞舟の魚も水を失えば則ち【ロウギ】に制せらる
訛 譌	225 【ナマリ】は国の手形

南柯	226 【ナンカ】の夢
微瑕	227 白璧の【ビカ】
卻隙	228 白駒の【ゲキ】を過ぐるが若し
反哺	229 鳩に三枝の礼あり鳥に【ハンポ】の孝あり
笄笄	230 比丘尼に【コウガイ】
屏風 屏風	231 人と【ビョウブ】は直には立たず
疝氣 疝	232 人の【センキ】を頭痛に病む
髀肉 脾肉	233 【ヒニク】の嘆
巫山	234 【フザン】の夢
詭道	235 兵は【キドウ】なり
波瀾	236 平地に【ハラン】を起こす
毫毛	237 目は【ゴウモウ】を見るも睫を見ず
鑪	238 【ヤスリ】と薬の飲み違い
膏肓	239 病【コウコウ】に入る
閻魔	240 用ある時の地藏顔、用なき時の【エンマ】顔
蘭麝	241 【ランジャ】の室に入る者は自ら香ばし
犁牛	242 【リギユウ】の喩え
柳絮	243 【リュウジョ】の才
燎原	244 【リョウゲン】の火
綸言	245 【リンゲン】汗の如し
舐	246 老牛犢を【ネブ】る
隴	247 【ロウ】を得て蜀を望む
蜀	248 隴を得て【シヨク】を望む
櫓 櫓	249 【ロカイ】の立たぬ海もなし
宵枕	250 暁知らずの【ヨイマクラ】

御定	251 飽かぬは君の【ゴジョウ】
頤	252 【オトガイ】の雫
涎	253 商いは牛の【ヨダレ】
算盤 十露盤	254 商人の子は【ソロバン】の音で目をさます
薊	255 【アザミ】の花も一盛り
率土	256 普天の下、【ソット】の浜
芻蕘 芻蕘	257 【スウジョウ】に詢る
貶	258 口で【ケナ】して心で褒める
菰 薦	259 好きの道には【コモ】被る
蹲	260 因果が【ツクバ】う
布帛	261 善言は【フハク】よりも暖かなり
鸞	262 【ウソ】の雄は晴れを呼び雌は雨を呼ぶ
聚斂	263 【シュウレン】の臣あらんよりは寧ろ盗臣あれ
鼈	264 【スッポン】が時をつくる
大廈 大廈	265 【タイカ】の材は一丘の木に非ず
垂拱	266 【スイキョウ】して天下治まる
嘴 觜	267 捨て【バシ】を突く
蛆虫	268 【ウジムシ】も一代
螻蛄 螻蛄	269 【ケラ】腹立つれば鶉喜ぶ
逸物	270 【イチモツ】の鷹も放さねば捕らず
詭	271 河童に塩を【アツラ】える
訥	272 君子は言に【トツ】なれども行いに敏ならんと欲す
沈香 線香	273 【ジンコウ】も焚かず屁もひらず
余殃	274 積悪の家には必ず【ヨオウ】有り
栴檀	275 【センダン】は双葉より芳し

大廈 大厦	276 【タイカ】の顛るや、一木の支うる所に非ず
大姦 大奸	277 【タイカン】は忠に似たり
嘴 觜	278 鶉の【ハシ】
鶉	279 田鼠化して【ウズラ】となる
塗炭	280 【トタン】の苦しみ
肺肝	281 【ハイカン】を摧く
竿頭	282 百尺【カントウ】一步を進む
河清	283 百年【カセイ】を俟つ
袈裟	284 布施ない経に【ケサ】落とす
蚊虻	285 【ブンボウ】牛羊を走らす
蚊虻	286 【ブンボウ】の勞
雉 雉子	287 焼け野の【キギス】夜の鶴
凌雲 陵雲	288 【リョウウン】の志
梁上	289 【リョウジョウ】の君子
魯魚	290 【ロギョ】の誤り
薦 菴	291 当たる罰は【コモ】着ても当たる
遏雲	292 【アツウン】の曲
沐	293 新たに【モク】する者は必ず冠を弾く
蟻穴	294 大山も【ギケツ】より崩る
晏嬰	295 【アンエイ】の狐裘
狐裘	296 晏嬰の【コキュウ】
框 檔	297 家に無くてはならぬものは上がり【ガマチ】と女房
諍	298 【イサカ】い果てての契り
蓮	299 砂に黄金、泥に【ハチス】
痛痒 痛癢	300 【ツウヨウ】を感ぜず

炬燵 火燵	301 【コタツ】で河豚汁
瓜実 瓜核	302 一【ウリザネ】に二丸顔
一簣	303 【イッキ】の功
一簣	304 【イッキ】を以て江河を障ぐ
一簣 一簣	305 【イッタン】の食、一瓢の飲
蓬萊 蓬萊	306 命長ければ【ホウライ】を見る
槿花	307 命は【キンカ】の露の如し
鴻毛	308 命は【コウモウ】より軽し
衣鉢	309 【イハツ】を継ぐ
倚門	310 【イモン】の望
蝦蟇 蝦蟆 蟄 蝦 蟆	311 【ガマ】は恒に鳴けども、人は聴かず
羽觴	312 【ウシヨウ】を飛ばす
膏藥	313 内股【ゴウヤク】
茄子 茄	314 瓜の蔓に【ナスビ】はならぬ
烏鷺	315 【ウロ】の争い
瑟	316 竽を好むに【シツ】を鼓す
雲霓	317 【ウンゲイ】の望み
憔悴	318 榮華有る者は必ず【ショウスイ】あり
嬰兒	319 【エイジ】の貝を以て巨海を測る
越俎	320 【エツソ】の罪
猷毒 鳩毒	321 宴安は【チンドク】
輶	322 【エン】を北にして楚に適く
藥缶	323 大きい【ヤカン】は沸きが遅い
大鋸屑	324 【オガクズ】も言えは言う
頤	325 【オトガイ】を解く

野雉	326 家鶏を賤しみて【ヤチ】を愛す
箎	327 風下に【ザル】
獅子吼	328 河東の【シシク】
撞木	329 鐘も【シュモク】の当たりがら
紙漉 紙抄	330 【カミス】きの手鼻
鴛鴦	331 鴨を打って【エンオウ】を驚かす
濟	332 借りる八合、【ナ】す一升
額下	333 驪竜【ガンカ】の珠
雉鳩	334 関関たる【ショキュウ】は河の洲に在り
癩癩	335 【カンシャク】持ちの事破り
干天 旱天	336 【カンテン】の慈雨
早魃 干魃	337 千日の【カンバツ】に一日の洪水
騏驎	338 【キキ】の踟躕するは驚馬の安歩に如かず
簞	339 傷持つ足は【ササラ】
杓子	340 【シャクシ】は耳搔きにならず
驥尾	341 【キビ】に付す
馭 御	342 朽索の六馬を【ギョ】するが如し
強弩	343 【キョウド】の末魯縞に入る能わず
鵝鳥 鶩鳥	344 金の卵も生む【ガチョウ】を殺すな
磴音	345 空谷の【キョウオン】
囿囿	346 草、【レイゴ】に満つ
鯨	347 鯨に【シャチホコ】
櫛	348 【クシ】の齒を挽く
園生	349 紅は【ソノウ】に植えても隠れなし
腥羶	350 群蟻【セイセン】に付く

傾蓋 傾蓋	351 白頭新の如く、【ケイガイ】故の如し
桂玉	352 【ケイギョク】の艱
荊棘 荆棘	353 【ケイキョク】の道
崑山	354 桂林の一枝、【コンザン】の片玉
褻	355 【ケ】にも晴れにも歌一首
懸河	356 【ケンガ】の弁
犬兎 犬兔 犬兔	357 【ケント】の争い
棘心	358 凱風南よりして彼の【キョクシン】を吹く
膏血	359 【コウケツ】を絞る
莠言	360 好言は口よりし、【ユウゲン】も口よりす
毫末	361 合抱の木も【ゴウマツ】に生ず
毫釐	362 【ゴウリ】の差は千里の謬り
誅	363 鉤を窃む者は【チュウ】せられ、国を窃む者は諸侯となる
狐裘	364 【コキユウ】にして羔袖す
腐芥	365 琥珀は【フカイ】を取らず
虚無僧	366 【コムソウ】に尺八
家苞	367 財宝は地獄の【イエツト】
槽 槽	368 【ロ】三年に棹八年
菖蒲	369 桜三月、【ショウブ】は五月
魚鱗	370 雑魚も【ウオヒレ】
躡走	371 【サヤバシ】りより口走り
死屍	372 【シシ】に鞭打つ
法螺	373 蜺千より【ホラ】貝一つ
靡	374 風に草【ナビ】く
勁草	375 疾風に【ケイソウ】を知る

麝	376 【ジャ】 あれば香し
鵲巢	377 【ジャクソウ】 風の起こる所を知る
一瓢	378 一簞の食、【イッピョウ】の飲
麝香	379 【ジャコウ】 は臍故命をとらるる
沙弥	380 【シャミ】 から長老にはなれぬ
舅	381 【シュウト】 の物で相婿もてなす
姑	382 【シュウトメ】 の十七見た者ない
煮染	383 重箱に【ニシ】め
楊枝 楊子	384 重箱の隅を【ヨウジ】でほじくる
愁眉	385 【シュウビ】を開く
出藍	386 【シュツラン】の誉れ
猩猩	387 【ショウジョウ】は血を惜しむ、犀は角を惜しむ
禽獸	388 猩猩能く言えども【キンジュウ】を離れず
杵臼	389 【ショキュウ】の交わり
精	390 【シラ】げの中の糲
蜻蛉 蜻蜓	391 尻切れ【トンボ】
吝	392 【シワ】ん坊と灰吹きは溜まるほど汚い
吝	393 【シワ】ん坊の柿の種
放	394 沈香も焚かず屁も【ヒ】らず
騏驎	395 人中の【キキ】
沈丁花 瑞香	396 【ジンチョウゲ】は枯れても芳し
頬冠 頬冠 頬被 頬被	397 頭巾と見せて【ホオカム】り
井蛙	398 【セイア】の見
正鵠	399 【セイコク】を失わず
帷幕	400 【イバク】修まらず

麤 麤	401 精を得て【ソ】を忘る
雪隠	402 【セッチン】の錠前
煙霞 烟霞	403 泉石【エンカ】の病
慄慄	404 戦戦【リツリツ】日に一日を慎め
蜉蝣 蜻蛉	405 仙人の千年、【カゲロウ】の一時
創痕	406 【ソウイ】未だ瘻（い）えず
草莽	407 【ソウモウ】の臣
倉廩	408 【ソウリン】実ちて礼節を知る
舁	409 駕籠【カ】き駕籠に乗らず
霤	410 泰山の【アマダレ】は石を穿つ
狗母魚 鱒	411 鯛なくば【エソ】
筍 笋	412 雨後の【タケノコ】
海月 水母	413 蛸に骨なし【クラゲ】に目なし
婀娜	414 【アダ】な素足も貧から起こる
炭団	415 【タドン】に目鼻
糗糒	416 隣の【ジンダ】味噌
誑	417 胴殻を【タラ】かす
馳走	418 【チソウ】終わらば油断すな
睫 睫毛	419 近くて見えぬは【マツゲ】
思	420 米の飯より【オボ】し召し
蚤	421 【ノミ】の夫婦
鬻	422 手酌五合、【タボ】一升
錚錚	423 鉄中の【ソウソウ】
踏	424 天に踊り地に【ヌキアシ】す
鳥糞 糞	425 【トリモチ】で馬を刺す

鉞 𠂔	426	【ナタ】を貸して山を伐られる
鯉 王余魚	427	夏座敷と【カレイ】は縁側がよい
鳩	428	【ニオ】の浮き巢
啄 啗	429	蠹【ツイバ】みて梁柱を割く
鮓 膠 鱧膠	430	【ニベ】もない
海鼠	431	【ナマコ】を藁でつなぐ
佞言	432	【ネイゲン】は忠に似たり
囊中 囊中	433	【ノウチュウ】の錐
鉋	434	鑿に【カンナ】の働きは無し
蕾	435	出ずる日【ツボ】む花
端	436	【ハナ】から和尚はない
翡翠 翡翠	437	【ヒスイ】は羽を以て自ら害わる
筆硯	438	【ヒツケン】を新たにす
飢饉 饑饉	439	旱魃に【キキン】なし
鄙 俚	440	【ヒナ】に都あり
瓢箪 瓢箪	441	【ヒョウタン】から駒が出る
飄風 颯風	442	【ヒョウフウ】は朝を終えず、驟雨は日を終えず
覆轍	443	【フクテツ】を踏む
煽	444	豚も【オダ】でりゃ木に登る
箆 箆	445	藪医者薬味【ダンス】
篋 篋	446	【ヘラ】を使う
跼	447	天に【セグクマ】り地に踏す
驟雨	448	飄風は朝を終えず、【シュウウ】は日を終えず
馮河	449	暴虎【ヒョウガ】の勇
茅茨	450	【ボウシ】剪らず采椽削らず

疱瘡	451 【ホウソウ】は見目定め、麻疹は命定め
傍輩 朋輩	452 【ホウバイ】の笑み敵
焙烙 炮烙	453 【ホウロク】千に槌一つ
櫓 艦	454 帆掛け船に【ロ】を押す
麻疹 疹	455 疱瘡は見目定め、【ハシカ】は命定め
角鬘	456 後ろ坊主の前【スミカズラ】
棟梁	457 松は二葉より【トウリョウ】の思いあり
棟梁	458 【トウリョウ】の器
倦	459 学びて厭わず教えて【ウ】まず
蝮	460 懐に【マムシ】を養うが如し
搾	461 味噌汁【コシラ】えて初産する
蓑 簑	462 【ミノ】を披て火を救い、瀆を毀りて水を止む
過	463 目を【ヨギ】れば忘れず
燎原	464 猛火【リョウゲン】より甚だし
末木	465 本木に勝る【ウラキ】無し
樵夫 樵 藁	466 山の事は【キコリ】に聞け
尤物	467 【ユウブツ】人を移す
屋梁	468 落月【オクリョウ】の想い
晨星	469 落落として【シンセイ】の相望むが如し
教誨 教戒 教誡	470 不屑の【キョウカイ】
膏藥	471 理屈と【コウヤク】はどこへでもつく
雷霆	472 目に秋毫の末を察すれば耳に【ライテイ】の声を聞かず
絆	473 良驥の足を【ホダ】して責むるに千里の任を以てす
蓼虫	474 【リョウチュウ】辛を忘る
豕	475 遼東の【イノコ】

恪気	476 【リンキ】は女の七つ道具
脆	477 瑠璃は【モロ】し
弄瓦	478 【ロウガ】の喜び
弄璋	479 【ロウショウ】の喜び
櫪	480 老驥【レキ】に伏すとも志千里に在り
老蚌	481 【ロウボウ】珠を生ず
廬山	482 【ロザン】の真面目
邯鄲	483 魯酒薄くして【カンタン】困まる
矮子	484 【ワイシ】の看戲
舫	485 【モヤ】いを入れる
韋編	486 【イヘン】三度絶つ
糾 糺	487 禍福は【アザナ】える繩の如し
干戈	488 【カンカ】に訴える
阿闍梨	489 【アジャリ】死して事欠けず
刎頸 刎頸	490 【フンケイ】の朋友
卮 卮字	491 利口の【マンジ】立て
吮疽	492 【センソ】の仁
一薰	493 一薰【イチユウ】十年なお臭あり
狎	494 酒の席には【チン】、猫、婆
呵責	495 【カシャク】の鬼
呻吟	496 無病にして【シンギン】す
蘭摧	497 【ランサイ】玉折を為すも蕭敷艾榮をは作さじ
擲 抛 抛	498 骨髓【ナゲウ】つ
蕙苴	499 【ヨクイ】の讒
鼎俎	500 【テイソ】に免れず

癆咳 劳咳	501 楊弓場の【ロウガイ】
咫尺	502 盈丈の尾を見て【シセキ】の軀にあらざるを知る
寒垢離	503 【カンゴリ】屋が商売は冷たい
姮娥 嫦娥	504 【コウガ】月に奔る
危殆	505 【キタイ】に瀕する
孤陋	506 独学にして友無きは【コロウ】にして寡聞
僥倖 徼幸	507 万一を【ギョウコウ】す
俯仰 俛仰	508 【フギョウ】天地に愧じず
俯	509 菩薩は実が入れば【ウツブ】く
梅檀	510 朝日【センダン】乾森
鐙	511 【アブミ】踏ん張る
腕	512 雨垂れ【カイナ】を弾く
躄 膝行	513 【イザ】っても三文
開闔	514 五寸の鍵【カイコウ】を制す
一掬	515 【イッキク】の涙
木鐸	516 社会の【ボクタク】
蕘	517 【イラカ】破れて霧不断の香を焚く
鬱金	518 【ウコン】の鉢巻き
嘶	519 牛が【イナナ】き馬が吼える
箴	520 【エビラ】を叩く
漲	521 煙焰天に【ミナギ】る
鉛槧	522 【エンザン】に付す
櫓臍 艫臍	523 大船を動かす【ロベソ】は一尺に足らず
瘡 疥	524 【オコリ】が落ちる
鈿	525 鯨に【モリ】

銚子	526 お手が鳴るなら【チョウシ】と悟れ
聊爾	527 男が七度追い出すまでは【リョウジ】に出ぬもの
鶉	528 【イスカ】の嘴
櫂	529 櫂を押して【カイ】は持たれぬ
凱歌	530 【ガイカ】を奏する
鷓鴣	531 【イツボウ】相挿む
鵲	532 【カササギ】の橋
噓 噓	533 狛が【クシャミ】をしたよう
噓 噓	534 元日に【ハナヒ】るは長命の相
茶筌 茶筌	535 髪結いの【チャセン】髪
榧	536 木の実【カヤ】の実食べても
茅屋	537 心安ければ【ボウオク】も穏やかなり、性定まれば菜根香ばし
茅 萱 茆	538 【カヤ】にも心置く
普請	539 東海の墓【ブシン】
眼窩	540 【ガンカ】に入る
巻帙	541 【カンチツ】綻ぶ
儘	542 開けた【ママ】なる雑言
櫪	543 驥も【レキ】に伏す
忌諱	544 【キキ】に触れる
九鼎	545 聞く時は【キュウテイ】より重く、見て後は一毫より軽し
一毫	546 聞く時は九鼎より重く、見て後は【イチゴウ】より軽し
木耳	547 【キクラゲ】の看板
篩	548 過って謝るに【フル】うこと勿れ
礫 飛礫	549 【ツブテ】発句は誰もする
箔	550 伽羅の仏に【ハク】を置く

裘葛	551	【キュウカツ】を換う
恐懼	552	【キョウク】戦兢なる者は患いを除く所以なり
旭日	553	【キョクジツ】昇天の勢い
燻	554	閻魔を抹香で【クス】べたよう
形骸	555	【ケイガイ】を土木にす
欠伸 欠	556	長口上は【アクビ】の種
闕所	557	【ケツショ】の門に馬繋ぐ
鵲 鵲	558	螻蛄腹立つれば【ツグミ】喜ぶ
啄木鳥	559	【キツツキ】の子は卵から頷く
亮 亮	560	【ケリ】をつける
慳貪	561	【ケンドン】屋の冷や飯
絢爛	562	【ケンラン】の極、平淡に造る
眷属 眷族	563	恒沙の【ケンゾク】
蒿里	564	【コウリ】の歌
鰥寡	565	国土を治むる賢皇は【カンカ】を侮ること勿れ
讒言	566	虎口の【ザンゲン】
鴻鵠	567	心【コウコク】にあり
甌	568	【コシキ】に座するが如し
駝鳥 駝	569	乞食の【ダチョウ】
錨	570	【コジリ】が詰まる
俳諧 誹諧	571	炬燵【ハイカイ】夏将棋
番	572	言葉を【ツガ】う
琥珀	573	【コハク】は腐芥を取らず
飛蝗 蝗虫	574	米搗き【バツタ】が礼に来たよう
紙縫 紙撚 紙捻	575	【コヨリ】の馬のよう

焜炉	576 【コンロ】に目鼻
豺狼 豺狼	577 【サイロウ】路に当たれり、いづくんぞ狐狸を問わん
泥濘 濘	578 提灯持ちが【ヌカルミ】へ入る
辣菲 辣菲 薤	579 【ラッキョウ】の皮を剥くよう
霍乱 瘧乱	580 猿の【カクラン】
蒼生	581 乃公出でずんば【ソウセイ】を如何せん
嶄然	582 【ザンゼン】として頭角を現す
三番叟	583 指の先で【サンバソウ】を踏ませる
鏤	584 梓に【チリバ】む
舳艫	585 【ジクロ】相銜む
榻	586 【シジ】の端書き
七艘	587 【シチソウ】船のような面
艾	588 七年の病に三年の【モグサ】を求む
塔婆	589 七本【トウバ】になる
輜重	590 【シチョウ】輸卒が兵隊ならば、蝶蝶蜻蛉も鳥の内
籤 鬮	591 【クジ】は三度
錫杖	592 【シャクジョウ】が人を切ったよう
綽綽	593 【シャクシャク】として余裕あり
蝦蛄 青竜蝦	594 【シャコ】で鯛を釣る
総領 惣領	595 【ソウリョウ】の甚六
聚蚊	596 【シュウブン】雷を成す
輸贏	597 【シュエイ】を争う
豎子 豎子 孺子	598 【ジュシ】ともに謀るに足らず
繻子	599 【シュス】の小袖に木綿裏
蓴菜 蓴 茆	600 【ジュンサイ】で鰻繫ぐ

春蘭	601 【シュンラン】 秋菊俱に靡すべからず
窈窕	602 【ヨウチョウ】 たる淑女は君子の好迷
好迷	603 窈窕たる淑女は君子の【コウキュウ】
脳漿	604 【ノウショウ】 を絞る
傷痕	605 【ショウイ】 未だ癒えず
依怙	606 天道に【エコ】 なし
慇懃	607 奴は婢を見て【インギン】
晦日 晦	608 祭の延びた六月の【ツゴモリ】
縁	609 虱紐の【エニシ】
嗔恚 嗔恚	610 【シンイ】 の炎
神祇	611 【ジンギ】 釈教恋無常
縛	612 身上が【モツ】 れる
真鍮	613 【シンチュウ】 を磨く
帷幕	614 針縷に順う者は【イバク】 を成す
新発意	615 【シンボチ】 太鼓
看經	616 汁食い【カンキン】 唐辛子熱湯順礼長左衛門
目眚 目眚	617 【モクシ】 尽く裂く
垂迹	618 利物の【スイジャク】
椽桷	619 大は棟梁と為し小は【スイカク】 と為す
碩学	620 晩学と雖も【セキガク】 に昇る
鷄 火烧	621 【ヒタキ】 は物貰い
滔天	622 【トウテン】 の勢い
規矩	623 【キク】 は方円の至りなり、聖人は人倫の至りなり
螻蛄	624 【ロウギ】 の誠
蚊蚋 蚊蚋	625 【ブンゼイ】 山を負う

端折	626 転んでから尻【ハシヨ】る
扶持	627 子持ち二人【ブチ】
匪躬	628 【ヒキュウ】の節
屠蘇	629 【トソ】は延年の仙薬
臘月	630 【ロウゲツ】の扇子
毛氈	631 【モウセン】を被る
尺牘	632 【セキトク】書疏は千里の面目
囷囷	633 倉廩実ちて【レイギョ】空し
長局	634 【ナガツボネ】の煤掃き
囃	635 親、物に狂わば子は【ハヤ】すべし
笄髻 笄鬢 笄髻 笄鬢	636 腸持ちのお大黒【コウガイワゲ】の尊像
臙腑	637 【ゾウフ】を揉む
木賊 砥草	638 【トクサ】に兎
僻目	639 親の欲目と他人の【ヒガメ】
潤目	640 【ウルメ】と博打は一返し
煙硝 烟硝 焰硝 焰硝 塩硝	641 火打ち箱に【エンショウ】入れて昼寝する
解	642 【ホグ】れを取る
葎	643 【ムグラ】の宿
膏葉	644 根太に【コウヤク】
鶯鶯	645 【ケイケイ】として子立し、形影相弔う
髮膚	646 身体【ハツブ】之を父母に受く
海棠	647 【カイドウ】の雨を帯びたる風情
緞子	648 貧すれば【ドンス】の帯を売り
干戈	649 弓矢を包み【カンカ】を袋にす
蒂 蒂	650 尼や沙弥や茄子の【ヘタ】や

醍醐	651 【ダイゴ】の上味翻じて毒薬となる
寺啄	652 【テラツツキ】の子は卵から頷く
窈窕	653 女は華丹の【ヨウチョウ】を乱すを悪む
破鏡	654 【ハキョウ】再び照らさず
緞帳	655 【ドンチョウ】芝居で花道が無い
瓢箪 瓢箪	656 【ヒョウタン】に釣り鐘
喋喋	657 【チョウチョウ】しきは恥じ易し
拉	658 産の苦は青竹をも【ヒシ】ぐ
饅頭	659 夏の昼【ウドン】
八朔	660 昼寝は【ハッサク】まで、火燧は亥の子から
蜈蚣	661 百足【ゴコウ】の違い
惆悵	662 【チュウチョウ】の藤は松に離れて便り無し
綢繆	663 牖戸を【チュウビュウ】す
樗材	664 【チョザイ】千年の寿も如かじ槿花一日の榮には
躑躅	665 飛鳥故郷を過ぐるや猶【テキチヨク】徘徊す
駟馬	666 一言既に出ずれば【シバ】も追い難し
慇懃	667 【インギン】を通じる
折檻	668 母の【セツカン】より隣の人扱いが痛い
間	669 祭が【ツカ】える
鶉	670 渡り【ヒヨドリ】に戻り鶉
気袿	671 【キヅマ】を合わせる
鶺鴒	672 【セキレイ】原に在り、兄弟難を急にす
種瓢 種瓢 種匏	673 【タネフクベ】の底を叩く
酪酊	674 大きに【メイテイ】の常灯明
提 提子	675 【ヒサゲ】の水が湯となる

鏢三文	676 【ビタサンモン】の値うちも無い
軽重	677 鼎の【ケイチョウ】を問う
薙刀 長刀 眉尖刀	678 弁慶に【ナギナタ】
宿禰 宿祢	679 飲みの【スクネ】
禰宜 祢宜	680 神は【ネギ】のはからい
夷狄	681 【イテキ】だも君有り
尻腰	682 【シッコシ】が無い
明哲	683 【メイテツ】身を保つ
華燭	684 【カシヨク】の典
忍辱	685 【ニンニク】の袈裟
忝 辱	686 【カタジケナ】さに涙こぼるる
輾転 展転	687 【テンテン】の思い
半纏 裨纏	688 はやりの【ハンテン】着ない者は馬鹿
爛爛	689 【ランラン】として巖下の電の如し
輾轆 鈞	690 【ロクロ】首の反吐
絢	691 盗人を捕らえて縄を【ナ】う
檔	692 袴の【マチ】に雑魚たまる
撓 撓	693 色を見て枝を【タワ】む
噎 噎	694 南瓜が【クサメ】する
癆咳 劳咳	695 【ロウガイ】病みの肉の落ちるよう
濟濟	696 【セイセイ】たる多士文王以て寧し
鞅 紂 尻繫 尻繫	697 年寄の言う事と牛の【シリガイ】は外れない
大廈 大廈	698 一木【タイカ】の崩るるを支うる能わず
手蹟 手跡	699 【シュセキ】は諸芸万能の上盛り
彬彬	700 文質【ヒンピン】として、然る後に君子なり

枇杷	701 【ビワ】 黄にして医者忙しく橘黄にして医者蔵る
琵琶	702 芸無し座頭の【ビワ】 拵え
扼 搯	703 喉を【ヤク】 して背を拵つ
五臓	704 夢は【ゴゾウ】 の疲れ
賞翫 賞玩	705 早いが【ショウガン】
伽羅	706 【キャラ】 の仏に箔を置く
白駒	707 【ハック】 の隙を過ぐるが如し
鈍間 野呂松	708 【ノロマ】 が箱を食らう
鉏	709 切羽【ハバキ】 する
黄泉路	710 【ヨミジ】 の障り
斑猫	711 石持の【ハンミョウ】
蕃茄	712 【トマト】 が赤くなると医者が青くなる
獵虎 獺虎 海獺 海獵	713 【ラッコ】 の皮
鰯	714 潮先の【イナ】 で飛び上がっている
琴柱 箏柱 箏柱	715 【コトジ】 に膠す
早 魃	716 【ヒデリ】 に不作無し
早魃 干魃	717 【カンバツ】 に飢饉なし
恐惶	718 礼に腰折れず、【キョウコウ】 に筆費えず
誹謗	719 【ヒボウ】 の木
夢寐	720 【ムビ】 にも忘れない
迦陵	721 【カリョウ】 頻伽の声
頻伽	722 迦陵【ビンガ】 の声
牝馬	723 【ヒンバ】 の貞
貧賤 貧賤	724 【ヒンセン】 の知は忘るべからず
一顰 一嘖	725 明主は【イッピン】 一笑を愛しむ

不憫 不愍	726 憎いが余って【フビン】
端	727 師匠の【ハナ】負け
俯仰 俛仰	728 【フギョウ】の間
麩 麸	729 焼き【フ】の土左衛門
蕪菁 蕪 菁	730 菜種から【カブラ】まで
諷経	731 【フギン】に立つ
伏櫪	732 【フクレキ】の志
鞆 鑪 吹子	733 【フイゴ】の向こう面
襠袍 縵袍	734 【ドテラ】三尺五分月代
紵	735 五両で帯買って三両で【ク】ける
葱葱	736 気佳なるかな、鬱鬱【ソウソウ】たり
僻耳	737 老いの【ヒガミミ】
蛙	738 井底の【ア】
驚馬	739 【ドバ】に鞭打つ
余喘	740 【ヨゼン】を保つ
嬰兒 緑児	741 【ミドリゴ】は水の泡
霍乱 瘧乱	742 貧乏な鳥は盆に【カクラン】をする
大旱	743 【タイカン】の雲霓を望むが若し
望蜀	744 【ボウショク】の願い
鋌 鋒 鋒	745 【キッサキ】を折る
鎖鑰	746 北門の【サヤク】
墨突	747 孔席暖まらず、【ボクトツ】黔まず
蒿苳	748 【チシャ】の葉の搔き取り
雛	749 呪いは【ヒヨコ】の如くねぐらに舞い戻る
欮	750 遺愛寺の鐘は枕を【ソバダ】てて聴く

槍衾 鎗衾 鎗衾	751 【ヤリブスマ】を作る
衾	752 枕を扇ぎ【フスマ】を温む
饅 鎗	753 当て【コテ】なしに左官はできぬ
饅	754 【ヌタ】の鉢の高名
無碍 無礙	755 六大【ムゲ】の月
烏滸 尾籠 痴	756 【オコ】の高名せぬに如かず
溝壑	757 妄りに与うるは物を【コウガク】に遺棄するに如かず
弥猛	758 【ヤタケ】にはやる
目睫	759 【モクショウ】の間
轅門	760 【エンモン】に降る
夜半	761 【ヨワ】の嵐
縁 所縁	762 草の【ユカリ】
茱萸 胡頹子 胡頹子	763 座頭の【グミ】
芝蘭	764 【シラン】の友
檜 枹 柞	765 松蔭の【ナラ】の木
脛 胫	766 鶴の【ハギ】も切るべからず
豺狼 豺狼	767 愚かなる羊は【サイロウ】にその身を談ず
犬馬	768 【ケンバ】の齡
犬馬	769 【ケンバ】の勞
犬馬	770 【ケンバ】の養い
輕忽	771 【ケイコツ】の頭に蠅がたかる
瓔珞	772 天人に【ヨウラク】取らしたような
抑 抑抑	773 【ソモソモ】から着きにけりまで
洛陽	774 【ラクヨウ】の紙価を高める
落人	775 【オチウド】は薄の穂にも怖じる

胡乱	776 【ウロン】の沙汰
累卵	777 【ルイラン】の危うき
欄干 欄杆 欄桿 闌干	778 【ランカン】に共に倚ると雖も山色を看ること同じからず
柵	779 鹿の【シガラミ】
驪竜	780 【リリョウ】領下の珠
搗	781 竿竹で星を【カ】つ
蚯蚓	782 真竜も勢いを失えば【キュウイン】に同じ
旅籠 旅籠	783 安い【ハタゴ】のよき馳走
窮鳥	784 【キュウチョウ】懐に入れば漁師も殺さず
鶉 鶉	785 渡り鶉に戻り【ツグミ】
扨	786 擦ったの【モジ】ったの
扨	787 腹の皮を【ヨジ】る
藜	788 【アカザ】の杖をつく
高麗縁	789 備後表に【コウライベリ】
鱧	790 【ハモ】も一期、海老も一期
籠鳥 籠鳥	791 【ロウチョウ】雲を恋う
廉恥	792 飢寒身に至る時は【レンチ】を顧みず
鯿 鯿	793 【ニシン】と筍
舳 鱸	794 【トモ】が回る
白鷺	795 【ハクロ】は塵土の穢れを禁ぜず
外郎	796 狐憑きに【ウイロウ】を飲ます
接	797 割った茶碗を【ツ】いでみる
腕捲	798 高名の【ウデマク】り
魄	799 魂を失い【ハク】を落とす
乾	800 【ケン】を旋らし坤を転ず

坤	801 乾を旋らし【コン】を転ず
奕棋 奕碁	802 君を視ること【エキキ】に如かず
驪	803 【リ】を探って珠を獲
疇昔 畴昔	804 【チュウセキ】の夜
黜陟	805 幽明を【チュツチョク】す
栲櫟 栲櫨	806 【チョレキ】の材
傾蓋 傾蓋	807 【ケイガイ】の知己
干戈	808 【カンカ】を倒載す
螻螂 螳螂 螳螂 螳螂 娘	809 【トウロウ】の衛
斗斛	810 【トコク】の禄
肉袒	811 【ニクタン】して羊を牽く
攀 縋	812 轅に【スガ】りて轍に臥す
攀	813 竜に【ヨ】じ驥に附く
驥	814 竜に攀じ【キ】に附く
輕裘	815 肥馬に乗り、【ケイキュウ】を衣る
不羈	816 【フキ】の才
蚊子	817 【ブンシ】、牛を咬む
胼胝 胼胝	818 【ヘンチ】の勞
掣肘	819 旁らより時に【セイチュウ】す
鉄硯	820 【テッケン】を磨穿す
踵 蹠 跟	821 頂を摩して【クビス】に放(いた)る
羊裘	822 【ヨウキュウ】、釣を垂る
琳琅 琳瑯	823 【リンロウ】、目に満つ
驢	824 【ロ】鳴き犬吠ゆ
乙夜	825 【イツヤ】の覽

札片 札枚	826 【サツビラ】を切る
簀 竦	827 肩を【ソビ】やかす
轄 楔	828 三寸の【クサビ】
竈 竈 爨	829 【カマド】を分ける
大鉦 大岩	830 【オオナタ】を振るう
斗酒	831 【トシュ】なお辞せず
頭	832 【カブリ】を振る
鶉	833 切なくなれば【ウズラ】も木へ登る
公界	834 三人寄れば【クガイ】
千仞 千尋	835 積水を【センジン】の谿に決す
樽	836 【クレ】は桶屋の棚にあり
膾 鱠 齏 壺	837 羹に懲りて【ナマス】を吹く
金鍔 金鐔	838 泥鰯汁に【キンツバ】
苟	839 行い、【イヤシク】も合わず
臍下	840 【セイカ】丹田に力を入れる
荆棘 荆棘	841 師の処る所【ケイキョク】生ず
嗷	842 空き家で声【カ】らす
鍍 鍍金	843 真金は【メッキ】せず
恐懼	844 周公【キョウク】す流言の日、王莽謙恭す未だ篡せざるの時
弭 弓弭 弓筈	845 【ユハズ】の調
粉黛	846 六宮の【フンタイ】顔色なし
全豹	847 一斑を見て【ゼンピョウ】をトす
佚 逸	848 【イツ】を以て労を待つ
筌	849 魚を得て【セン】を忘る
烏鵲	850 【ウジャク】の智

迂直	851	【ウチョク】の計
槐安	852	【カイアン】の夢
咳唾	853	【ガイダ】珠を成す
鸞鳩	854	【ガクキュウ】大鵬を笑う
驥足	855	【キソク】を展ばす
笈	856	【キュウ】を負う
伎癢 技癢	857	【ギヨウ】に堪えず
喬木	858	【キョウボク】は風に折らる
麒麟	859	【キリン】の躓き
麒麟	860	【キリン】も老いては驚馬に劣る
溝壑	861	【コウガク】を填む
拙誠	862	巧詐は【セッセイ】に如かず
蛟竜	863	【コウリョウ】雲雨を得
亢竜	864	【コウリョウ】悔い有り
股肱	865	【ココウ】の臣
爾汝	866	【ジジョ】の交わり
駟	867	【シ】も舌に及ばず
蕭牆 蕭牆	868	【ショウショウ】の憂え
轍迹	869	善行は【テッセキ】無し
滄桑	870	【ソウソウ】の変
細謹	871	大行は【サイキン】を顧みず
直諫 直諫	872	【チョツカン】は一番槍より難し
九臯 九皋	873	鶴【キュウコウ】に鳴き声天に聞こゆ
轍鮒	874	【テツプ】の急
蝸牛	875	【デデムシ】が日和を知る

洩漏	876 天機【セツロウ】すべからず
屠所	877 【トシヨ】の羊
伯牙	878 【ハクガ】琴を破る
鼈	879 【ベツ】人を食わんとし却て人に食わる
沐猴	880 【モッコウ】にして冠す
少愈	881 病は【ショウユ】に加わる
埴	882 山に躓かずして【テツ】に躓く
喬木	883 幽谷を出でて【キョウボク】に遷る
揖	884 門を開きて盗みに【ユウ】す
斧柯	885 両葉去らずんば【フカ】を用うるに至る
藜羹	886 【レイコウ】を食らう者は大牢の滋味を知らず
醴水	887 【レイスイ】の交わり
犢	888 老牛【トク】を舐る
盧生	889 【ロセイ】の夢
鴻毛	890 挙ぐることは【コウモウ】の如く、取ることは拾遺の如し
覆舟	891 奔車の上に仲尼無く、【フクシュウ】の下に伯夷無し
衢道	892 【クドウ】を行く者は至らず
杞柳	893 性は猶【キリュウ】の如し
続飯	894 考えと【ソクイ】は練る程良い
瑾瑜	895 【キンユ】瑕を匿す
水潦	896 海は【スイロウ】を譲らず、以て其の大を成す
勁松	897 【ケイショウ】は歳寒に彰れ、貞臣は国危に見る
齊家	898 修身【セイカ】治国平天下
蚊虻 蚊蚋	899 【ブンゼイ】膚を咬み虎狼肉を食らう
岫	900 雲は無心にして【シュウ】をいず

磧礫	901	【セキレキ】になれて玉淵をうかがわず
鉄杵	902	【テッショ】を磨く
反間	903	【ハンカン】苦肉の策
手臂	904	【シュヒ】終に外に向かって曲げず
鬼臉	905	【キケン】を被って稚児を威す
暝眩	906	若し薬【メイゲン】せざればその疾癒えず
菽水	907	【シュクスイ】の飲
回瀾 廻瀾	908	【カイラン】を既倒に反す
嘉肴	909	【カコウ】有りと雖も食らわずんばその旨きを知らず
橘中	910	【キツチュウ】の楽しみ
檻褸	911	昨日の【ツヅレ】、今日の錦
戎馬	912	【ジュウバ】を殺して狐狸を求む
黍離	913	【ショリ】の嘆
芝蘭	914	【シラン】の室に入るが如し
芝蘭	915	【シラン】の化
赤貧	916	【セキヒン】洗うが如し
尺璧	917	【セキヘキ】宝に非ず、寸陰是競う
積毀	918	【セッキ】骨を銷す
銷	919	積毀骨を【ショウ】す
伯樂	920	千里の馬は常に有れども【ハクラク】は常には有らず
宋襄	921	【ソウジョウ】の仁
曾參	922	【ソウシン】人を殺す
里耳 俚耳	923	大声、【リジ】に入らず
長鞭	924	【チョウベン】馬腹に及ばず
頂門	925	【チョウモン】の一針

灸	926 土に【キュウ】
田鼠	927 【デンソ】化して鶉となる
転蓬	928 生涯は【テンプウ】に似たり
麦秀	929 【バクシュウ】の嘆
伯樂	930 【ハクラク】の一顧
叢中	931 万緑【ソウチュウ】紅一点
灸	932 飛脚に三里の【キュウ】
布衣	933 【ファイ】の友
負薪	934 【フシン】の憂い
唾	935 面に【ダ】せば自ら乾く
繡 繡	936 夜行くに【シュウ】を被る
呂翁	937 【リョオウ】の枕
大牢	938 藜羹を食らう者は【タイロウ】の滋味を知らず
黄牛	939 【アメウシ】に腹突かれる
屋漏	940 【オクロウ】に愧じず
梁	941 【ウツバリ】の塵を動かす
梁塵	942 【リョウジン】を動かす
衣錦	943 【イキン】の栄
懿公	944 【イコウ】鶴を好む
一翳	945 【イチエイ】眼があれば空華乱墜す
梧桐	946 【ゴドウ】角を断つ
機杼	947 一家を【キチョ】す
一籌	948 【イツチュウ】を輸す
一臂	949 【イッピ】の労
溢美	950 【イツビ】の言

猗頓	951 【イトン】の富
帛	952 衣は【ハク】を重ねず
渭浜	953 【イヒン】の器
伊蘭	954 【イラン】の林に交われども赤梅檀の香は失せず
弊帚 敝帚	955 家に【ヘイソウ】有り、之を千金に享つ
韋弦	956 【イゲン】の佩
孟	957 【ウ】方なれば水方なり
上臈 上臈	958 魚は【ジョウロウ】に焼かせよ、餅は下種に焼かせよ
盈満	959 【エイマン】の咎
鵠卵	960 越鶏は【コ克蘭】を伏す能わず
轅下	961 【エンカ】の駒
偃鼠 鯁鼠 鯁鼠	962 【エンソ】河に飲むも満腹に過ぎず
屋烏	963 愛【オクウ】に及ぶ
竽	964 【ウ】を好むに瑟を鼓す
面瘡	965 思い【オモクサ】思われ面皰
甲斐絹 海気 海黄	966 表木綿の裏【カイキ】
穩座	967 【オンザ】の初物
会稽 会稽	968 【カイケイ】の恥
快犢	969 【カイトク】車を破る
凱風	970 【ガイクウ】南よりして彼の棘心を吹く
梁	971 【ウツバリ】の燕
塵垢	972 鏡明らかなれば則ち【ジンコウ】止まらず
人数	973 餓鬼も【ニンズ】
和氏	974 【カシ】の璧
苛政	975 【カセイ】は虎よりも猛し

鶯舌 鶯舌	976 花中の【オウゼツ】は花ならずして芳し
粵犬	977 【エッケン】雪に吠ゆ
瓜田	978 【カデン】に履を納れず
臥榻	979 【ガトウ】の側他人の鼾睡を容れず
神庫	980 神の【ホクラ】も梯のままに
河梁	981 【カリョウ】の別れ
庖厨 庖厨	982 餓狼の【ハウチュウ】を守る如し
委蛇	983 河は【イイ】を以ての故に能く遠し
土器 瓦	984 【カワラケ】の欠けも用あり
冠蓋 冠蓋	985 【カンガイ】相望む
姦 奸	986 【カン】無きを以て吠えざるの狗を畜うべからず
管豹	987 【カンピョウ】の一斑
驥	988 【キ】、塩車に服す
箕山	989 【キザン】の志
賤蚌 賤蚌	990 貴珠は【センボウ】より出ず
鬼籍	991 【キセキ】に入る
耆婆	992 【ギバ】、扁鵲でもいかぬ
牛鼎	993 【ギユウテイ】鶏を煮る
食	994 一簞の【シ】、一瓢の飲
曲肱	995 【キョッコウ】の楽しみ
巾幗	996 【キンカク】の贈
踟躕	997 騏驎の【キョクチョク】するは駑馬の安歩に如かず
金蘭	998 【キンラン】の契り
饌	999 金を炊ぎ玉を【セン】す
砂 沙 砂子 沙子	1000 【イサゴ】に黄金、泥に蓮

魯縞	1001 強弩の末【ロコウ】に入る能わず
犄角	1002 【キカク】の勢い
蕩蕩	1003 君子【トウトウ】として小人戚戚たり
庖厨 庖廚	1004 君子は【ホウチュウ】を遠ざく
須弥	1005 螢火を以て【シュミ】を焼く
醯鷄	1006 【ケイケイ】甕裏の天
桀	1007 【ケツ】の犬堯に吠ゆ
蒹葭	1008 【ケンカ】玉樹に倚る
涓涓	1009 【ケンケン】壅がざれば終に江河となる
涓滴	1010 【ケンテキ】岩を穿つ
黔驢	1011 【ケンロ】の技
盜跖	1012 孔丘【トウセキ】俱に塵埃
孝經	1013 【コウキョウ】で親の頭を打つ
香餌	1014 【コウジ】の下必ず死魚有り
恒沙	1015 【ゴウシャ】の眷属
黄泉	1016 【コウセン】の路上老少無し
穎 穎	1017 【エイ】を脱す
鴻毛	1018 【コウモウ】を以て炉炭の上に燎く
阿蒙	1019 呉下の【アモウ】
白犢	1020 黒牛【ハクトク】を生む
鶩	1021 鵠を刻して【ボク】に類す
梧鼠 鼯鼠	1022 【ゴソ】は五技にして窮す
去年	1023 【コゾ】植えた柿の木
壺中 壺中	1024 【コチュウ】の天
涸轍	1025 【コテツ】の鮒魚

梁	1026	【ウツバリ】の埃落つ
綵衣 彩衣	1027	【サイイ】親を娛しましむ
采薪	1028	【サイシン】の憂い
堯	1029	桀の犬【ギョウ】に吠ゆ
簀	1030	【サク】を易う
三槐	1031	【サンカイ】を植う
讒臣	1032	【ザンシン】国を乱し妬婦家を破る
三釜	1033	【サンブ】の養
自彊	1034	【ジキョウ】息まず
鷲鳥	1035	【シチョウ】百を累ぬるも一鷲に如かず
駟	1036	【シ】の隙を過ぐるが若し
醜夷	1037	【シュウイ】に在りて争わず
伍	1038	衆草と【ゴ】す
菽麦	1039	【シュクバク】を弁ぜず
須弥山	1040	【シュミセン】と丈競べ
章甫	1041	【ショウホ】履に薦く
章甫	1042	【ショウホ】を資して越に適く
扁鵲	1043	耆婆、【ヘンジャク】でもいかぬ
鍍	1044	真金は【ト】せず
薪水	1045	【シンスイ】の労
甕裏 甕裡	1046	醢鷄【オウリ】の天
炊白	1047	【スイキュウ】の夢
隋珠 随珠	1048	【ズイシュ】をもって雀を弾つ
蛟竜	1049	水行して【コウリュウ】を避けざるは漁夫の勇なり
垂簾	1050	【スイレン】の政

艱	1051 桂玉の【カン】
羔袖	1052 狐裘にして【コウシュウ】す
精衛	1053 【セイエイ】、海を填む
尺璧	1054 聖人は【セキヘキ】を貴ばずして寸陰を重んず
湍水	1055 性は猶【タンスイ】のごとし
青蠅 青蝇	1056 【セイヨウ】白を染む
尺蚓	1057 【セキイン】堤を穿てば一邑を漂わす
狭匙 切匙	1058 【セツカイ】で腹を切る
鴻爪	1059 雪泥の【コウソウ】
魚鼈	1060 川淵深くして【ギョベツ】之に帰し、山林茂れば禽獸之に帰す
駕	1061 千里【ガ】を命ず
甌中	1062 【ソウチュウ】塵を生じ、釜中魚を生ず
桑蓬	1063 【ソウホウ】の志
纓	1064 滄浪の水清まば以て吾が【エイ】を濯う可し
妬婦	1065 老いて【トフ】の功を知る
秕 粃	1066 粟の【ヒ】有るが若し
里閭	1067 鼠穴を治めて【リリョ】を壊る
纓	1068 楚囚其の冠を【エイ】す
林藪 林藪	1069 刀下の鳥【リンソウ】に交わる
闔門	1070 大功を天下に建つる者は必ず先ず【ケイモン】の内を修む
鼯睡	1071 臥榻の側他人の【カンスイ】を容れず
大椿	1072 【ダイチン】の寿
丹漆	1073 【タンシツ】文らず
聾	1074 痴ならず【ロウ】ならざれば姑公と成らず
砥柱	1075 中流の【シチュウ】

長鉄	1076 【チョウキョウ】 帰らんか、食に魚無し
直躬	1077 【チョツキユウ】 父を証す
万歳	1078 山【バンゼイ】 を呼ぶ
猿	1079 月の影取る【マシラ】
唾	1080 【ツバキ】 で矢を矧ぐ
庭訓	1081 【テイキン】 三月四書大学
鐘鼎	1082 【ショウテイ】 の門
涅	1083 【デッ】 すれども縮まず
鉄桶	1084 【テットウ】 水を漏らさず
逆旅	1085 天地は万物の【ゲキリョ】、光陰は百代の過客
董狐	1086 【トウコ】 の筆
榛	1087 十【ハシバミ】 の九つ空
齋 齋食	1088 【トキ】 にも非時にも外れる
斗筭	1089 【トソウ】 の人
蠹 蠹	1090 【ト】 啄みて梁柱を割く
屠竜	1091 【トリョウ】 の技
緯	1092 布は【ヌキ】 から男は女から
木天蓼	1093 猫に【マタタビ】
猫糞	1094 【ネコババ】 でしゃあしゃあまじまじ
杯杓	1095 【ハイシャク】 に勝えず
柏舟	1096 【ハクシュウ】 の操
莫邪	1097 【バクヤ】 を鈍しと為し鉛刀を銛しと為す
伯翳	1098 【ハクユ】 杖に泣く
俑	1099 【ヨウ】 を作る
伍	1100 罷士は【ゴ】 無く罷女は家無し

高木履	1101 日照りの【タカボクリ】
野老	1102 人屑と【トコロ】屑は投げる所はない
襟裾	1103 人にして古今に通ぜずんば馬牛にして【キンキョ】するなり
菟裘 菟裘	1104 【トキユウ】の地
冰壺 冰壺	1105 【ヒョウコ】の心
牝鷄	1106 【ヒンケイ】農す
不屑	1107 【フセツ】の教誨
大鵬	1108 鸞鳩【タイホウ】を笑う
陌上	1109 【ハクジョウ】の塵
萍水	1110 【ヘイスイ】相逢う
弊履 敝履	1111 【ヘイリ】を棄つるが如し
汨羅	1112 【ベキラ】の鬼
顧眄	1113 鞍に抛りて【コベン】す
屁糞 屁屎	1114 【ヘクソ】葛も花盛り
竈 竈	1115 【ヘツツイ】より女房
姦 奸	1116 偏聴【カン】を生ず
布衣	1117 【ホウイ】に靴の沓
鷓鴣	1118 鳳凰笈（ど）に在り【ケイボク】翔舞す
楚幕	1119 【ソバク】に烏有り
箔	1120 仏の【ハク】を剥がす
拱	1121 墓木已に【キョウ】す
例	1122 誉める人を買った【タメシ】なし
蒲柳	1123 【ホリュウ】の質
畚土	1124 【ホンド】の基は高きを成す能わず
鱗角	1125 学ぶ者は牛毛の如く、成る者は【リンカク】の如し

渠	1126 水到りて【キョ】成る
驥	1127 道遠くして【キ】を知る
楊梅	1128 深山木の中の【ヨウバイ】
孝悌 孝弟	1129 身を立つるは【コウテイ】を以て基と為す
無患子	1130 【ムクロジ】は三年磨いても黒い
母望 無望 母妄 無妄	1131 【ムボウ】の禍
秋毫	1132 目に【シュウゴウ】の末を察すれば耳に雷霆の声を聞かず
盲亀	1133 【モウキ】の浮木
蜂螿	1134 猛虎の猶予するは【ホウタイ】の螿を致すに若かず
藕糸	1135 【グウシ】の孔
螿	1136 猛虎の猶予するは蜂螿の【セキ】を致すに若かず
弋	1137 【ヨク】して宿を射ず
浩大	1138 雷声【コウダイ】雨点全く無し
羅綺	1139 【ラキ】千箱、一暖に過ぎず
蕭敷	1140 蘭摧玉折を為すも【ショウフ】艾榮をは作さじ
藍田	1141 【ランデン】玉を生ず
蹊徑	1142 李下に【ケイケイ】無し
睫上	1143 離朱が明も【ショウジョウ】の塵を視る能わず
艾榮	1144 蘭摧玉折を為すも蕭敷【ガイエイ】をは作さじ
采椽	1145 茅茨剪らず【サイテン】削らず
凌霄	1146 【リョウショウ】の志
良賈	1147 【リョウコ】は深く蔵して虚しきが如し
股栗 股慄	1148 寇準、殿に上りて、百僚【コリツ】す
鴿原	1149 【レイゲン】の情
醴酒	1150 【レイシュ】設けず

蠡	1151 【レイ】を以て海を測る
輦轂	1152 【レンコク】の下
魯陽	1153 【ロヨウ】の戈
懈惰	1154 禍いは【カイダ】に生ず
槁木	1155 形は【コウボク】の如く心は死灰の如し
友于	1156 【ユウウ】の情
寿夭	1157 命を信ずる者は【ジュヨウ】亡し
玉卮 玉卮	1158 【ギョクシ】当無し
奸人 姦人	1159 【カンジン】の前には機巧を言うことなかれ
杠 杠秤 扛秤	1160 家鴨の【チギ】重し負うたような
枋	1161 【オウゴ】屋の火事で棒焼く
鷄肋	1162 【ケイロク】捨て難し
芒刺	1163 【ボウシ】背に在り
巫医	1164 人にして恒無くんば以て【ファイ】を作すべからず
韓信	1165 【カンシン】の股くぐり
泛駕	1166 【ハウガ】の馬
秃筆	1167 【トクヒツ】を呵する
猷芹	1168 野人【ケンキン】の意
佼佼	1169 庸中の【コウコウ】
咄咄	1170 【トツトツ】人に迫る
箕帚 箕箒	1171 【キシユウ】の妾
箕帚 箕箒	1172 【キシユウ】を執る
忽諸	1173 【コッショ】に付する
金榜	1174 【キンボウ】に名を掛く
罔極	1175 【モウキョク】の恩

俠氣 俠氣	1176 友に交わるには須く三分の【キョウキ】を帯ぶべし
阮咸	1177 【ゲンカン】は竿上の禪を手向く
輪奐	1178 【リンカン】の美
妍醜 妍醜	1179 自家の【ケンシュウ】は自家知る
閨巷	1180 【リョコウ】の人
石菖	1181 【セキショウ】鉢の目高
扁舟	1182 一葉の【ヘンシュウ】
枳	1183 江南の橘江北に移されて【キ】となる
浹洽	1184 明日一理を弁え、久しくすれば自然に【ショウコウ】す
灸 灼	1185 【ヤイト】箸にて目を突く
眇	1186 矯めつ【スガ】めつ
桀紂	1187 【ケツチュウ】其の身を忘る
荔枝	1188 【レイシ】を捻ったよう
倚閭	1189 【イリョ】の情
冢中	1190 【チョウチュウ】の枯骨
緊唇	1191 【アクチ】も切れぬ
身柱 天柱	1192 【チリケ】から水を掛ける
閨浮	1193 明日は【エンブ】の塵ともならばなれ
樗蒲一	1194 【チョボイチ】なら七里帰っても張れ
毬杖 毬打	1195 腕無しの振り【ギツショウ】
飄石	1196 腕無しの振り【ズンバイ】
天地	1197 【アメツチ】を袋に縫う
犇 犇	1198 【イ】を乗る
飯粒	1199 【イイボ】してもつ釣る
箎籬	1200 【イカキ】俯けたような

兎唇 兔唇 兔唇 欠唇	1201 【イグチ】も靨
躡	1202 出ずるに警し、入るに【ヒッ】す
師曠 師曠	1203 【シコウ】の聡
一揆	1204 【イツキ】の寄り合い
一粲	1205 【イツサン】を博す
鯨	1206 命が【ス】える
鯨鯢	1207 命を【ゲイゲイ】の腮に懸く
畔	1208 田走るより【クロ】走れ
枢	1209 瓦の窓、縄の【トボソ】
變理	1210 陰陽を【ショウリ】す
糶	1211 植木屋の【セリ】分け
陸	1212 水鳥【クガ】に惑う
門閭	1213 于公【モンリョ】を高大にす
曠夫 曠夫	1214 内に怨女無く、外に【コウフ】無し
胞衣	1215 生まるる子の【エナ】に親の定紋
燕趙	1216 【エンチョウ】悲歌の士
蹇蹇	1217 王臣【ケンケン】躬の故にあらず
罷駑	1218 王良車に登れば馬に【ヒド】無し
大幣 大帛	1219 【オオヌサ】の引く手あまた
熾火 燠火	1220 初手はちよろちよろ中かつか末は【オキビ】
臙 虎魚	1221 山の神に【オコゼ】
還俗	1222 釈迦が【ゲンゾク】してきても
起請	1223 女郎の千枚【ギショウ】
未通女	1224 【オボコ】の臍
鉄漿	1225 【カネ】を付ける

駕	1226 【ガ】を枉ぐ
蓋棺 蓋棺	1227 【ガイカン】事定まる
蝨斯	1228 【シュウシ】の化
瓜葛	1229 【カカツ】の親
杜鵑	1230 天津橋上【トケン】の声を聞く
膈	1231 【カク】、脹満医者いらす
被衣	1232 【カズキ】着た御居処はつめられず
蕭蕭	1233 風【ショウショウ】として易水寒し
四衢	1234 三界の火宅、【シク】の露地
餓	1235 【カツ】え坊主が齋に会ったよう
反古 反故	1236 紙屋の【ハウグ】でしわくたじゃ
瑕瑜	1237 【カユ】相揜（おお）わず
冠	1238 【カン】を掛く
寒暄	1239 【カンケン】を叙す
癘性 癘症	1240 【カンショウ】病みの汚いもの知らず
寒蟬 寒蟬	1241 【カンセン】枯木を抱く
渙然	1242 【カンゼン】氷積する
甘棠	1243 【カントウ】の愛
顔	1244 【カンバセ】を犯す
駢突	1245 鞞（き）を以て【カントツ】を御す
龜鶴	1246 【キカク】の思い
鬼瞰	1247 【キカン】の禍
歸雁 歸鴈	1248 【キガン】友を偲ぶ
東籬	1249 菊を【トウリ】の下に采り、悠然として南山を見る
杞梓	1250 【キシ】連抱にして数尺の朽あるも良工は棄てず

挿	1251 柄の無い所に柄を【ス】げる
黄檗 黄蘗 檗 蘗	1252 【キハダ】を嘗めた啞（おし）のよう
箪	1253 箕売り笠にて【ヒ】る
牛渡	1254 【ギユウシュウ】馬勃敗鼓の皮
筐底 筐底 篋底	1255 【キョウテイ】に秘す
魚魯	1256 【ギョロ】を弁ぜず
雪花菜	1257 轆轤首が【キラズ】を食う
瑾	1258 【キン】を懐き瑜を握る
瑜	1259 瑾を懐き【ユ】を握る
金襴	1260 【キンラン】着るか薦着るか
腫物	1261 口吸うと【シュモツ】にいえば耳立たず
屈輪	1262 【グリ】を舞う
瑶台 瑤台	1263 群玉【ヨウダイ】の仙境
孳孳	1264 鶏鳴に起き【ジジ】として善をなす
瓊瑤 瓊瑤	1265 【ケイヨウ】は少なきを以て貴なりとし、石礫は多きを以て賤しとす
石礫	1266 瓊瑤は少なきを以て貴なりとし、【セキレキ】は多きを以て賤しとす
桂林	1267 【ケイリン】の一枝、崑山の片玉
上臙 上臙	1268 下衆無い【ジョウロウ】は成らず
桀	1269 【ケツ】を助けて虐を為す
啄木鳥	1270 【ケラ】の子は卵から頷く
啄木鳥	1271 【ケラツツキ】の子は卵から頷く
晁脛 晁脛	1272 【フケイ】短しといえども之をつがば則ち憂えん
瞽女	1273 【ゴゼ】の日高に着いたよう
瞽	1274 【コ】ならず聾ならざれば公たる能わず
峻原	1275 高山【シュンゲン】草木を生ぜず、松柏の地は其の土肥えず

盗跖	1276 孔子に【トウセキ】
溝瀆 溝澆	1277 【コウトク】に縊る
隆準	1278 【リュウセツ】にして竜顔
棲遲 栖遲	1279 衡門の下以て【セイチ】すべし
膏粱	1280 【コウリョウ】の子弟
紅絹 紅	1281 後家の見せかけ数珠は奥【モミ】
孤閨	1282 【コケイ】を守る
屈	1283 【コゴ】み女に反り男
昆弟	1284 志合えば胡越も【コンテイ】たり、志合わざれば骨肉も讐敵たり
狡	1285 【コス】い子身をもたぬ
媒	1286 無功の賞は不義の富禍の【ナカダチ】なり
側柏 兕手柏	1287 【コノテガシワ】の二面
虎斑	1288 【コハン】は見易く人斑は見難し
小鬢	1289 【コビン】が禿げる
護摩	1290 【ゴマ】の灰
嗟来	1291 【サライ】の食
食	1292 嗟来の【シ】
苦李	1293 道傍の【クリ】
桑榆	1294 之を東隅に失い【ソウユ】に収む
袞竜 袞竜	1295 【コンリョウ】の袖に隠れる
梭	1296 【サ】を投ぐる間
筮篔	1297 【コウコウ】夢に入る
月代 月額	1298 鍋の【サカヤキ】石の髭
正朔	1299 【セイサク】を奉ず
榎	1300 三月の桜【ザ】め

残喘	1301 【ザンゼン】を保つ
蓼花	1302 紫燕は柳樹の枝に戯れ白鷺は【リョウカ】の蔭に遊ぶ
掏摸 掏兜	1303 仕置き場の【スリ】
疵瑕	1304 【シカ】が見える
錙銖	1305 【シシュ】を遺さず
賤 賤	1306 【シズ】が伏せ屋に月もさす
偈	1307 七仏通戒の【ゲ】
檀那	1308 しつこい坊主に【ダンナ】がない
鴟目	1309 【シモク】大なれど視ること鼠に若かず
錫	1310 【シヤク】を飛ばす
寂寞 寂漠	1311 【ジャクマク】の枢
車轂	1312 【シヤコク】撃つ
筌蹄	1313 書は道を求むる【センテイ】なり
漿	1314 【シヨウ】を乞いて酒を得る
牆 墻	1315 糞土の【シヨウ】は朽(ぬ)るべからず
笙歌	1316 【シヨウカ】遥かに聴く孤雲の上、聖衆来迎す落日の前
鍾馗	1317 【シヨウキ】大臣の棚から落ちたよう
蛇勢	1318 常山の【ダセイ】
担桶	1319 小便【タゴ】にも小波
松蘿	1320 【シヨウラ】の契り
婢	1321 奴は【ヒ】を見て慇懃
畛域	1322 【シンイキ】を撤して諸生を待つ
膺穴	1323 【ソシシ】の空国
鶴脰	1324 【カクケイ】長しと雖もこれを断たばすなわち悲しむ
膏腴	1325 【コウユ】の地

熊羆	1326 【ユウヒ】の夢
舩舩	1327 【ゲンゲン】相摩す
新造	1328 四十【シンゾ】五十島田
猪牙	1329 【チョキ】が親船
大尽	1330 昨日の【ダイジン】、今日の乞食
頼母子	1331 無尽の【タノモシ】を頼むよう
風塵	1332 【フウジン】の警
夜尿	1333 【ヨバリ】垂れ嫌うて夜糞垂れ貰うた
楓葉	1334 【フウヨウ】衰えて盧橘花開く
萃	1335 類を出で【スイ】を抜く
紡錘 錘	1336 【ツム】の緒の切れたよう
入唐	1337 臍が【ニットウ】渡天する
贅六	1338 上方【ゼイロク】に広島乞食
秋毫	1339 【シュウゴウ】を析つ
良驥	1340 【リョウキ】の足を絆して責むるに千里の任を以てす
績	1341 徒居しょうより膝麻【ウ】め
枋	1342 【オウゴ】を折る
雪隠	1343 【センチ】の火事
一揃	1344 夜明けの【ピンゾロ】
僭上 僭上	1345 我が物いらすの【センジョウ】張り
皮癬 癬	1346 乗り合い船の【ヒゼン】搔き
白癬 白禿瘡	1347 仁王の【シラクモ】
狙公	1348 【ソコウ】橡を賦（くば）る
書疏	1349 尺牘【ショソ】は千里の面目
鄭衛	1350 【テイエイ】の音

鄭声	1351 【テイセイ】 雅を乱る
曾孫	1352 ちゃっちゃんの【ヒコ】
卷子 綜麻	1353 なりに似せて【ヘソ】を巻く
梨子地	1354 更に【ナシジ】の重箱
独参湯	1355 忠臣蔵は歌舞伎の【ドクジントウ】
子立	1356 榮榮として【ゲツリツ】し、形影相弔う
帛	1357 【ハク】を散じて亡卒の遺骸を収む
秋 穉 穉	1358 存亡の【トキ】
白虹	1359 【ハッコウ】日を貫く
泥裏 泥裡	1360 【デイリ】に土塊を洗う
誣	1361 神を【シ】うる者は、殃い三世に及ぶ
翻筋斗 翻筋斗	1362 【モンドリ】を打つ
梁木	1363 泰山頹れ【リョウボク】折る
青黛	1364 【セイタイ】が立て板に香炉木の墨
員子 銀子	1365 【インツウ】沢山
鯢	1366 尺沢の【ゲイ】
然諾	1367 【ゼンダク】を重んじる
素裕	1368 伊達の【スアワセ】
青蛾	1369 火を恋う【セイガ】は焰に焼かれ、花を貪る胡蝶は蜘蛛の網（い）にかか る
池塘	1370 【チトウ】春草の夢
値遇	1371 【チグ】の縁
囊底 囊底	1372 【ノウテイ】の智
答拜	1373 馳走【タッパイ】
簾	1374 伯氏壘を吹き仲氏【チ】を吹く
壘	1375 伯氏【ケン】を吹き仲氏簾を吹く

総角	1376 【ソウカク】の好
検校	1377 一夜【ケンギョウ】向こう見ず
鯪	1378 沖の【ハマチ】
注連 標 七五三	1379 播り粉木に【シメ】
緋縮緬	1380 【ヒヂリメン】虎の皮より恐ろしい
書厨 書廚	1381 両脚の【ショチュウ】
牖戸	1382 【ユウコ】を綯繆す
牖中	1383 【ユウチュウ】に日を窺う
野猪	1384 【ヤチョ】にして介するもの
隠亡	1385 【オンボウ】も焼き賃
薯蕷	1386 塗り箸【トロロ】
蠹 蠹	1387 枯魚索を銜む、幾何か【ト】せざらん
射干玉 野干玉 烏玉 烏珠	1388 世は【ヌバタマ】の闇の儲け
蜻蜓	1389 鼻毛で【ヤンマ】を釣る
貂	1390 狗尾をもて【チョウ】に継ぐ
狗吠	1391 鶏鳴【クハイ】相聞こゆ
銚釐	1392 鍋に耳あり【チロリ】に口あり
田鑿	1393 方柄（ほうぜい）を持って【エンサク】に内れんと欲す
寵辱	1394 【チョウジョク】皆忘る
籌策 籌筭	1395 【チュウサク】を帷帳の中に運らし、勝を千里の外に決す
狗馬	1396 【クバ】の心
番番	1397 黄髮【ハハ】に謀れば、則ち過つ所なし
顛墜 顛墜	1398 高山に登らざる者は、【テンツイ】の患いを知ること無し
夜鶴	1399 【ヤカク】子を思う
野鶴	1400 【ヤカク】鶏群に在り

弓爾乎波 天爾遠波	1401	【テニヲハ】が合わない
梨園	1402	【リエン】の弟子
手底	1403	【タナソコ】にめぐらす
閻浮提	1404	【エンブダイ】第一
廂間	1405	【ヒアワイ】から日食を拝むよう
頰白 斑白 半白	1406	朋友には相踰えず、【ハンパク】には提挈せざれ
提挈	1407	朋友には相踰えず、頰白には【テイケツ】せざれ
鼎鑪	1408	【テイトウ】も尚耳あり
衆寡	1409	【シュウカ】敵せず
没溺	1410	深き淵に臨まざる者は【ボツデキ】の患いを知ること無し
菟糸 菟糸 兔糸 兔糸 兔糸 兔糸	1411	【トシ】女羅に付く
都鄙	1412	【トヒ】に歩みを失う
猪頸 猪頸 猪首	1413	兜を【イクビ】に着る
犬子 犬児 狗	1414	【エノコ】の火を踏みたるよう
籐	1415	牛麩に【トウ】を通す
牛麩 鼻麩	1416	【ハナヅラ】に籐を通す
惨怛	1417	疾痛【サンダツ】、未だ嘗て父母を呼ばざるはあらず
道傍	1418	【ドウボウ】の苦李
道傍	1419	舎を【ドウボウ】に作れば三年にして成らず
銅壺 銅壺	1420	焼け原に【ドウコ】引く
撓	1421	けんによう切れて胸【シワ】らす
默然	1422	【モクネン】和尚もお経読む
梨花	1423	【リカ】一枝春雨を帯ぶ
稼穡	1424	一度食する毎に便ち【カシヨク】の艱難を念う
乳狗	1425	【ニュウク】人を搏ち伏鶏狸を搏つ

一狐裘	1426 【イッコキュウ】三十年
燃犀	1427 【ネンサイ】の見
碩鼠 石鼠	1428 【セキノ】五能一技を成さず
矮鷄	1429 能書きと【チャボ】の時は当てにならぬ
水旱	1430 良農は【スイカン】の為に耕さずんばあらず
播州	1431 【バンシュウ】へ行って浄瑠璃語るな
蛇影	1432 杯中の【ダエイ】
生灸	1433 【ナマヤイト】の皮を剥く
陰核	1434 馬に乗りても【ヘノコ】安からず
鉄鉢	1435 【テツパツ】ひっかける
真砂	1436 【マサゴ】の数
頃	1437 一飯の【ケイ】
木挽	1438 鼠と【コビキ】は引かねば食われぬ
庚申	1439 話は【コウシン】の晩
韶	1440 【ショウ】を聞くこと三月、肉の味わいを知らず
錯節	1441 盤根【サクセツ】に遇いて利器を知る
飛蓬	1442 【ヒホウ】風に乗ず
八艘	1443 義経の【ハッソウ】飛び
匪石	1444 【ヒセキ】の心
婢	1445 耕は当に奴に問うべく、織は当に【ヒ】に問うべし
斐然	1446 【ヒゼン】として章を成す
鄙吝	1447 一日見ざれば【ヒリン】生ず
猿臂	1448 【エンピ】を伸ばす
熊羆	1449 【ユウヒ】の士
麋鹿	1450 【ビロク】の姿

苗代	1451 寒さひだるさ【ナワシロ】時
半銭 寸半	1452 文字【キナカ】盗まぬ人
藐姑射	1453 【バクコヤ】の山
賓頭盧	1454 【ビンズル】ほど塗る
痘瘡 痘 疱 皰	1455 【モガサ】靨に見える
鮑魚	1456 不善人と居るは【ホウギョ】の肆に入るが如し
仗	1457 【ジョウ】に立つの馬を見ずや
手斧	1458 用いられぶり【チョウナ】頭
斧斤	1459 【フキン】時を以て山林に入る
斧鑿	1460 【フサク】の痕
五倍子 付子 附子	1461 【フシ】食ったよう
文盲	1462 負け惜しみは一生【モンモウ】
腐鼠	1463 【フソ】の嚇
舞舞螺	1464 【マイマイツブリ】も一軒の主
口吻	1465 【コウフン】を洩らす
皎然	1466 大丈夫事を行うや、当に礧礧（らいらい）落落、日月の【キョウゼン】たるが如くなるべし
帶厲 帶礪 帶砺	1467 【タイレイ】の誓い
陳蔡	1468 【チンサイ】の厄
刺草	1469 【セキソウ】の臣
巾箱	1470 【キンソウ】の寵
樽木 扶木	1471 【フボク】の地
賁育	1472 【ホンイク】の勇
逢掖	1473 【ホウエキ】の衣
草萊 草萊	1474 【ソウライ】を辟く
偏諱	1475 【ヘンキ】を賜う

嘔	1476 一沐に三たび髪を握り、一飯に三たび【ホ】を吐く
蒲鞭	1477 【ホベン】の罰
蒲盧	1478 政は【ホロ】のごとし
赤縄	1479 【セキジョウ】の因を結ぶ
方人	1480 老いの【カタウド】
嗔 嬖	1481 念者嫉妬は【カカ】以上
楊柳	1482 【ヨウリュウ】の風に吹かるるが如し
大龕灯 大強盜	1483 貧乏寺の【オオガンドウ】
溝壑	1484 志士は【コウガク】に在るを忘れず
讒	1485 謀る者をば近づけ【ザン】する者をば覆す
道陸神	1486 北向きの【ドウロクジン】
北辰	1487 【ホクシン】その所に居て衆星之に向かう
木欒子	1488 【モクレンジ】は白くならず
穆	1489 【ボク】として清風の如し
馬勃	1490 牛溲【バボツ】敗鼓の皮
万頃	1491 良田の【バンケイ】なるも日に二升を食う
飲食	1492 仏も百味の【オンジキ】
法論味噌	1493 【ホロミソ】売りの夕立
逸民 佚民	1494 太平の【イツミン】
権輿	1495 【ケンヨ】も無い
巖下	1496 【ガンカ】の電
暝	1497 以て【メイ】すべし
螟蛉	1498 【メイレイ】子有れば螟蛉（から）之を負う
五十集	1499 博奕博勞【イサバ】
孟浪	1500 【モウロウ】の言

蒙	1501 【モウ】を發き落を振るうが如し
默	1502 君命は【モダ】し難し
仇野 化野 徒野	1503 【アダシノ】の露、鳥辺野の煙
桑榆	1504 【ソウユ】且に迫らんとす
交尾 遊牝	1505 鶏初めて【ツル】む
偏	1506 世挙つてこれを誉むるとも【ヒトエ】に勸むことを加えざれ
剛戾	1507 【ゴウレイ】自ら用う
告朔	1508 【コクサク】の餼羊（きよう）
团亀	1509 【ドンガメ】にお月様
虎落	1510 【モガリ】を逆様
癩	1511 養子児の【カン】の出たよう
缶 甌	1512 【ホトギ】を被つて壁に向かうが如し
螺貝 海螺貝	1513 【ツブガイ】の念仏
青藍	1514 【セイラン】の器
李白	1515 【リハク】一斗詩百篇
冠履	1516 【カンリ】を貴んで頭足を忘る
籬下	1517 人の【リカ】に寄る
藩籬	1518 【ハンリ】の鷄（あん）
馬陸	1519 【ヤスデ】、臭亀を笑う
鍾馗	1520 【ショウキ】の立腹
河海	1521 【カカイ】は細流を扱ばず
受領	1522 【ズリョウ】は倒るる所に土を掴め
獲麟	1523 病【カクリン】に及ぶ
台 閣	1524 九層の【ウテナ】は累土より起こる
黎元	1525 【レイゲン】の資

廬	1526 蝸牛の【ロ】
蝸牛	1527 【カギユウ】の廬
露隠	1528 【ツユゴモ】りの葉月
朽索	1529 【キュウサク】の六馬を馭するが如し
牢乎	1530 【ロウコ】として抜くべからず
貉 貉	1531 一丘の【カク】
猿臂	1532 【エンピ】の勢い
譌 訛	1533 亥豕の【カ】
柯会	1534 【カカイ】の盟
鶴鳴	1535 【カクメイ】の士
羈絆 羈絆	1536 【キセツ】の僕
薑桂	1537 【キョウケイ】の性
荊山 荆山	1538 【ケイザン】の玉
黒貂	1539 【コクチョウ】の裘
枯樹	1540 【コジュ】、華を生ず
胡孫	1541 【コソン】、袋に入る
鮒魚	1542 涸轍の【フギョ】
渾崙 渾崙	1543 【コンロン】、棗を呑む
菜羹	1544 七種の【サイコウ】
徙木	1545 【シボク】の信
游竜	1546 車は流水の如く馬は【ユウリョウ】の如し
豈弟	1547 【ガイテイ】の君子は民の父母なり
漿	1548 酒を【ショウ】とし肉を霍とす
霍	1549 酒を漿とし肉を【カク】とす
柢 蒂 蒂	1550 根を深くして【テイ】を固くす

参商	1551 【シンショウ】の隔て
厲	1552 深ければ【レイ】し、浅ければ掲す
掲	1553 深ければ厲し、浅ければ【ケイ】す
空濛	1554 水光激濺（れんえん）として晴れ方に好く、山色【クウモウ】として雨も亦た奇なり
填海 填海	1555 【テンカイ】の志
跖	1556 【セキ】の狗堯に吠ゆ
桑間	1557 【ソウカン】濮上（ぼくじょう）の音
賈	1558 多錢、善く【コ】す
鳧 鳧	1559 鶴を断ちて【フ】に続く
湛盧	1560 【タンロ】の劍
徽羽	1561 【チウ】の操
置錐	1562 【チスイ】の地
誅心	1563 【チュウシン】の法
擲果	1564 【テキカ】、車に満つ
晨	1565 牝鷄の【シン】
倒載	1566 干戈を【トウサイ】す
撞末	1567 【トウマツ】の技
屠毒	1568 【トドク】の筆墨
荊 荊	1569 肉袒して【ケイ】を負う
日昃	1570 【ニッショク】の勞
吠日	1571 【ハイジツ】の怪しみ
跛鼈	1572 【ハベツ】も千里
謬悠	1573 【ビュウユウ】の説
布衣	1574 【ファイ】の極
伏寇 伏寇	1575 牆に耳あり、【フクコウ】側に在り

鞭辟	1576 【ベンペキ】して裏に近づく
封豕	1577 【ホウシ】長蛇を為す
無妄 毋妄 無望 毋望	1578 【ムボウ】の福
埴	1579 冥行して【シヨク】を擿（さぐ）る
埴生	1580 【ハニユウ】の宿
鷹犬	1581 【ヨウケン】の才
泥塗	1582 軒冕を【デイト】にす
軒冕	1583 【ケンベン】を泥塗にす
喬松	1584 【キョウシヨウ】の寿
虎鬚	1585 【コシュ】を編む
生酔	1586 【ナマエ】い本性違わず
咄咄	1587 【トツトツ】の怪事
閻王	1588 鼻中の白毛は【エンオウ】の使い
青蠅 青蝇	1589 【セイヨウ】も垂棘を穢す能わず
蹄窪	1590 【テイワ】の内、蛟竜を生せず
馳騁	1591 天下の至柔は、天下の至堅を【チテイ】す
毀傷	1592 身体髪膚之を父母に受く、敢えて【キシヨウ】せざるは孝の始めなり
惴惴	1593 温温たる恭人は、木に集（とど）まるが如し、【ズイズイ】たる小心は、谷に臨むが如し
貝錦	1594 萋（せい）たり斐たり、是の【バイキン】を成せり
蝮蛇	1595 【フクダ】一たび手を螫せば、壯士は疾く腕を解く
罅漏	1596 【カロウ】を補苴し、幽眇を張皇す
牛驥	1597 【ギユウキ】、阜を同じくす
阜	1598 牛驥、【ソウ】を同じくす
椒	1599 【ハジカミ】の食い合わせ
薑	1600 手が【ハジカミ】ならば生姜三へぎ

一杯	1601 【イッポウ】の土未だ乾かず、六尺の孤安にか在る
響動 哄	1602 始めの囁き後の【ドヨ】めき
侏儒	1603 【シュジュ】は飽いて死せんと欲し、臣朔は饑えて死せんと欲す
磨礪 磨砺	1604 【マレイ】は当に百煉の金の如くすべし
鉛槧	1605 書を読みて聖賢を見ざれば、【エンザン】の傭と為る
崎嶇	1606 人情は反復し、世路は【キク】たり
経綸	1607 林泉の下に処りては、須らく廊廟の【ケイリン】を懐くことを要すべし
筐 筐	1608 【カタミ】の水
濃漿	1609 天の【コンズ】
蛾眉 娥眉	1610 糸に非ず、竹に非ず、【ガビ】に非ず
蓬蒿	1611 我が輩豈是れ【ホウコウ】の人ならんや
溝洫	1612 宮室を卑しくして力を【コウキョク】に尽くす
侃侃	1613 下大夫と言うときは、【カンカン】如たり、上大夫と言うときは、闐闐如（ぎんぎんじょ）たり
蛮貊	1614 言忠信にして、行い篤敬ならば、【バンバク】の邦と雖も行われん
大象	1615 女の髪の毛には【タイゾウ】も繋がる
頭足	1616 冠履を貴んで【トウソク】を忘る
成竹	1617 胸中に【セイチク】あり
九思	1618 君子に【キュウシ】有り
死魚	1619 香餌の下必ず【シギョ】有り
虎変	1620 大人は【コヘン】す
断機	1621 【ダンキ】の戒め
胆斗	1622 【タント】の如し
五厘	1623 逢えば【ゴリン】の損がいく
答礼	1624 青海苔の【トウレイ】に太太神樂を打つ
班女	1625 【ハンジョ】が扇

間然	1626 【カンゼン】 する無し
記問	1627 【キモン】 の学
栄耀	1628 正直貧乏横着【エヨウ】
焼眉 焦眉	1629 【ショウビ】 の急
余慶	1630 積善の家には必ず【ヨケイ】 有り
川上	1631 【センジョウ】 の嘆
千慮	1632 【センリョ】 の一失
縄墨	1633 大匠は拙工の為に【ジョウボク】 を改廃せず
内証	1634 不断よいなりする人に【ナイショウ】 のよいは無し
衆妙	1635 忍の一字は【シュウミョウ】 の門
蛮触	1636 【バンショク】 の争い
木石	1637 人【ボクセキ】 に非ず
皮裏	1638 【ヒリ】 の陽秋
抱柱	1639 【ホウチュウ】 の信
恭	1640 貌には【キョウ】 を思う
貌	1641 【ボウ】 には恭を思う
殉	1642 身を以て利に【ジュン】 ず
醜	1643 愛してその【シュウ】 を忘る
朝露	1644 危うきこと【チョウロ】 の如し
異域	1645 【イイキ】 の鬼と為る
江湖	1646 魚は【コウコ】 に相忘る
群軽	1647 【グンケイ】 軸を折る
烏集	1648 【ウシュウ】 の交わり
烏鳥	1649 【ウチョウ】 の私情
烏頭	1650 【ウトウ】 白くして馬角を生ず

栄耀	1651 【エヨウ】の餅の皮
鉛刀	1652 【エントウ】の一割
近憂	1653 遠慮なければ【キンユウ】あり
温良恭儉讓	1654 【オンリョウキョウケンジョウ】、以て之を得たり
解語	1655 【カイゴ】の花
回禄 回祿	1656 【カイロク】の災い
細流	1657 河海は【サイリュウ】を扱はず
河漢	1658 【カカン】の言
火牛	1659 【カギユウ】の計
盜泉	1660 渴すれども【トウセン】の水を飲まず
褐	1661 【カツ】を被り玉を懐く
含沙	1662 【ガンシャ】、影を射る
汗馬	1663 【カンバ】の労
奇貨	1664 【キカ】居くべし
忌服	1665 七歳未満【キブク】なし
旗鼓	1666 【キコ】相当たる
季布	1667 【キフ】の一諾
金神	1668 鬼門【コンジン】我より崇る
堅白	1669 【ケンパク】同異の弁
高閣	1670 【コウカク】に束ぬ
荒神	1671 【コウジン】の火傷
雌黄	1672 口中の【シオウ】
孤掌	1673 【コショウ】鳴らし難し
項背	1674 【コウハイ】相望む
三献	1675 酒は【サンコン】に限る

私照	1676 日月に【シショウ】無し
戚戚	1677 君子蕩蕩として小人【セキセキ】たり
飲河	1678 【インカ】の願い
祝融	1679 【シュクユウ】の災い
城下	1680 【ジョウカ】の盟
傷弓	1681 【ショウキュウ】の鳥
掌上	1682 【ショウジョウ】に運らす
掌中	1683 【ショウチュウ】の珠
奇特	1684 正法に【キドク】なし
仕	1685 【シ】を致す
揚州	1686 【ヨウシュウ】の夢
積羽	1687 【セキウ】舟を沈む
膳部	1688 【ゼンブ】揃うて箸を取れ
細腰	1689 楚王【サイヨウ】を好み宮中に餓人有り
宿世	1690 行き摩りの【スクセ】
朝市	1691 大隠は【チョウシ】に隠る
頂礼	1692 【チョウライ】昂じて尼になる
天淵 天淵	1693 【テンエン】の差
刀筆	1694 【トウヒツ】の吏
近火	1695 遠水【キンカ】を救わず
干城	1696 二卵を以て【カンジョウ】の将を棄つ
尾生	1697 【ビセイ】の信
朝	1698 百川海に【チョウ】す
氷炭	1699 【ヒョウタン】相愛す
風樹	1700 【フウジュ】の嘆

附耳 付耳	1701 【フジ】の言も千里に聞こゆ
浮生	1702 【フセイ】夢の若し
盛事	1703 文章は経国の大業不朽の【セイジ】
擁	1704 箒を【ヨウ】し門に迎う
忘形	1705 【ボウケイ】の交わり
忘憂	1706 【ボウユウ】の物
芳	1707 【ホウ】を後世に流す
賦	1708 槩を横たえて詩を【フ】す
本卦	1709 【ホンケ】還りの三つ子
奔車	1710 【ホンシャ】の上に仲尼無く、覆舟の下に伯夷無し
無稽 無稽	1711 【ムケイ】の言は聴く勿れ
薬石	1712 【ヤクセキ】効無し
遊刃 游刃	1713 【ユウジン】余地有り
余桃	1714 【ヨトウ】の罪
履霜	1715 【リソウ】の戒め
柳眉	1716 【リュウビ】を逆立てる
継子	1717 【ママコ】の腹はいつもふくれぬ
祐筆 右筆	1718 物得書かねば【ユウヒツ】置く
相好	1719 【ソウゴウ】を崩す
緩頰 緩頰	1720 【カンキョウ】を煩わす
短褐	1721 寒者は【タンカツ】を利とす
羅宇	1722 【ラウ】仕替えも職の中
狭斜	1723 【キョウシャ】の巷
泉下	1724 【センカ】の客となる
鱗甲	1725 胸中の【リンコウ】

慶庵 慶安 桂庵	1726 【ケイアン】 者の空笑い
傾危	1727 【ケイキ】 の士
警策	1728 【ケイサク】 に接する
穴隙	1729 【ケツゲキ】 を鑽る
有司	1730 籩豆（へんとう）の事は、則ち【ユウシ】存す
玄翁 玄能	1731 卵に【ゲンノウ】
湖海	1732 【コカイ】 の士
狐丘	1733 【コキュウ】 の戒め
野干	1734 獅子吼ゆれば【ヤカン】脳裂く
城府	1735 【ジョウフ】 を設けず
章句	1736 【ショウク】 を尋ねる
莊嚴	1737 信は【ショウゴン】より起こる
深窓	1738 【シンソウ】 の佳人
懸魚	1739 香餌の下には【ケンギョ】あり
腎虚	1740 【ジンキョ】 の練り薬
盛昌	1741 【セイショウ】 我意に任す
凝滞	1742 聖人は物に【ギョウタイ】せず
権道	1743 仏に方便聖人に【ケンドウ】
精兵	1744 索引きの【セイビョウ】
置郵	1745 【チュウ】 して命を伝えるより速やかなり
地維	1746 天柱折け【チイ】欠く
宣旨	1747 夏の氷は【センジ】なければ氷らず
莊周	1748 【ソウシュウ】 の夢
九層倍	1749 薬【クソウバイ】
尺寸	1750 【セキスン】 の兵

御幣束	1751 井戸端の【ゴヘイソク】
批点	1752 【ヒテン】を打つ
王侯将相	1753 【オウコウショウショウ】、寧んぞ種あらんや
尺沢	1754 【セキタク】の鯢
麗沢	1755 【レイタク】の契り
旦夕	1756 【タンセキ】に迫る
奉書	1757 【ホウショ】に炭団
旧歎	1758 【キュウカン】を暖める
陵遲	1759 山は【リョウチ】を以て故に能く高し
胴乱	1760 竹の【ドウラン】でくるには及ばぬ
久離 旧離	1761 【キュウリ】を切る
窮余	1762 【キュウヨ】の一策
兆民	1763 王は【チョウミン】を子とす
公儀	1764 【コウギ】を張る
連理	1765 【レンリ】の枕
東作	1766 【トウサク】の業
焦熱	1767 名聞は【ショウネツ】の爪木
定業	1768 【ジョウゴウ】が極まる
等閑	1769 【トウカン】に付す
質的	1770 【シツテキ】張りて弓矢至る
吐逆	1771 転柿が【トギヤク】したよう
窮途	1772 【キュウト】の哭
洞庭	1773 【ドウテイ】濬しと雖も之を負む者は北（やぶ）る
佳句	1774 夢に【カク】を得
臨濟	1775 【リンザイ】の喝徳山の棒

庸行	1776 聖読して【ヨウコウ】す
伏鷄	1777 乳狗人を搏ち【フクケイ】狸を搏つ
盜臣	1778 聚斂の臣あらんよりは寧ろ【トウシン】あれ
推参	1779 杯に【スイサン】無し
配所	1780 罪無くして【ハイショ】の月を見る
虎皮	1781 羊質にして【コヒ】を着す
奔命	1782 【ホンメイ】に疲れる
未必	1783 【ミヒツ】の故意
階前	1784 【カイゼン】は則ち万里なり
小成	1785 道は【ショウセイ】に隠れ、言は榮華に隠る
舞馬	1786 【ブバ】の災い
覆輪	1787 金箔付きの上に【フクリン】掛ける
脂粉	1788 【シフン】の気
陵谷	1789 【リョウコク】の変
十能	1790 鬼が【ジュウノウ】を抱えたよう
礼楽刑政	1791 【レイガクケイセイ】その極は一なり
半鐘	1792 【ハンショウ】泥棒
木鷄	1793 【ボクケイ】に似たり
移木	1794 【イボク】の信
悪木	1795 熱しても【アクボク】の陰に憩わず
維摩	1796 【ユイマ】の一黙
上慢	1797 【ジョウマン】の幢（はたほこ）
漫漫	1798 県官【マンマン】冤（うら）み死する者半ばなり
二	1799 味わいを【ジ】せず
遺賢	1800 野に【イケン】なし

令名	1801 士に争う友あれば身【レイメイ】を離れず
中有	1802 【チュウウ】に迷う
冥冥 瞑瞑	1803 【メイメイ】の裡
鹿鳴	1804 【ロクメイ】の宴
滅頂	1805 【メツチョウ】の災い
寂滅	1806 【ジャクメツ】の煙と立ち上る
白面	1807 【ハクメン】の書生
九牛	1808 【キュウギユウ】の一毛
宗匠	1809 【ソウショウ】の夜の雨
桃林	1810 牛を【トウリン】の野に放つ
薬石	1811 【ヤクセキ】の言
東隅	1812 之を【トウグウ】に失い桑榆に収む
遜	1813 一籌を【ソン】ずる
歳寒	1814 【サイカン】の松柏
有待	1815 【ウダイ】の身
有漏	1816 【ウロ】の身
緑陰 緑蔭	1817 【リョクイン】幽草、花時に勝る
陸処	1818 吞舟の魚も【リクショ】すれば則ち螻蟻に制せらる
枝流	1819 吞舟の魚は【シリユウ】に游がず
自余 爾余	1820 【ジヨ】に混せず
高陽	1821 【コウヨウ】の酒徒
犬牙	1822 【ケンガ】相制す
密夫	1823 盗みは貧から、【ミツブ】は栄耀から
盛年	1824 【セイネン】重ねて来らず
来者	1825 【ライシャ】は追うべし

弱水	1826 蓬萊【ジャクスイ】の隔たり
金輪	1827 【コンリン】奈落の底
九重	1828 【キュウチョウ】の天
流星光底	1829 【リュウセイコウテイ】長蛇を逸す
竜馬	1830 【リュウメ】の蹟き
随喜	1831 【ズイキ】の涙
富足	1832 礼儀は【フソク】に生ず
温石	1833 夏の【オンジャク】と傾城の心とは冷たい
火宅	1834 三界の【カタク】、四衢の露地
馬脚	1835 【バキヤク】を露す
塵土	1836 白鷺は【ジンド】の穢れを禁ぜず
六尺	1837 一抔の土未だ乾かず、【リクセキ】の孤安にか在る
孝慈	1838 六親和せずして【コウジ】有り
連城	1839 【レンジョウ】の壁
横草	1840 【オウソウ】の功
魁壘	1841 【カイルイ】の士
過庭	1842 【カテイ】の訓え
金谷	1843 【キンコク】の酒数
敗子	1844 慈母に【ハイシ】有り
長阪 長坂	1845 駿足【チョウハン】を思う
上下	1846 【ショウカ】、心を一にす
青山	1847 人間到る処【セイザン】有り
米泉	1848 【ベイセン】の精
麦曲	1849 【バクキョク】の英
探卵	1850 【タンラン】の患い

遅暮 遅莫	1851	【チボ】の嘆
沖和	1852	【チュウワ】の気
重卵	1853	【チョウラン】の危うき
程孔	1854	【テイコウ】蓋を傾く
天府	1855	【テンプ】の国
倒懸	1856	【トウケン】の急
党錮	1857	【トウコ】の禍い
白屋	1858	【ハクオク】の士
白眉	1859	【ハクビ】最も良し
馬齒	1860	【バシ】徒（いたず）らに増す
伐性	1861	【バッセイ】の斧
伐氷	1862	【バツピョウ】の家
腹誹 腹非	1863	【フクヒ】の法
不繫 不繫	1864	【フケイ】の舟
膚受	1865	【フジュ】の愬え
寄	1866	分憂の【キ】
分憂	1867	【ブンユウ】の寄
飽経	1868	風霜を【ハウケイ】す
墨守	1869	成規を【ボクシュ】す
妄想	1870	【モウゾウ】の縄
六蔽	1871	六言の【リクヘイ】
六合	1872	【リクゴウ】、風を同じうす
遠山	1873	【エンザン】の眉
黄白	1874	【コウハク】を散じる
喉舌	1875	【コウゼツ】の官

在天	1876 【ザイテン】の靈
帥	1877 三軍も【スイ】を奪うべし
追風	1878 【オイテ】に帆を上げる
内外	1879 【ウチト】の典
秋水	1880 腰間の【シュウスイ】
荀氏	1881 【ジュンシ】の八竜
荀語	1882 悪言は口より出ださず、【コウゴ】は耳に留めず
阿衡	1883 【アコウ】の佐
八斗	1884 【ハット】の才
諫子 諫子	1885 家に【カンシ】なければ其の家必ず滅ぶ
自脈	1886 医者【ジミヤク】効き目なし
葦巢	1887 【イソウ】の悔い
兩鮫 兩蛟	1888 一淵には【リョウコウ】ならず
誼	1889 其の【ギ】を正し其の利を謀らず
右臂	1890 咽喉【ユウヒ】の地
烏鳶	1891 【ウエン】の卵毀たざれば而る後に鳳凰集まる
班門	1892 【ハンモン】斧を弄す
白鶴	1893 雲中の【ハツカク】
詠雪	1894 【エイセツ】の才
榎	1895 【エ】の実はならばなれ、木は椋の木
淵中 淵中	1896 【エンチュウ】の魚を知る者は不祥なり
竈 竈	1897 奥に媚びんよりは寧ろ【ソウ】に媚びよ
階	1898 【カイ】を釈てて天に登る
泄	1899 事は密を以て成り、語は【セツ】を以て敗る
客星	1900 【カクセイ】帝座を犯す

破窓	1901 風、【ハソウ】を射て灯火滅し易し
飛鴻	1902 【ヒコウ】雪泥を踏む
一竿	1903 【イッカン】の竹、簪裾に換えず
寒松	1904 【カンショウ】千丈の節
楚越	1905 肝胆も【ソエツ】なり
韓盧	1906 【カンロ】を馳せて蹇兔を逐う
棄灰	1907 【キカイ】の刑
箕裘	1908 【キキュウ】の業
挈瓶	1909 【ケツベイ】の智
羈鳥	1910 【キチョウ】旧林を恋い池魚故淵を思う
窮寇 窮寇	1911 【キュウコウ】は追うこと勿れ
裘	1912 【キュウ】を反して薪を負う
魚豕	1913 【ギョシ】の惑い
驥	1914 【キ】をして鼠を捕らしむ
粟	1915 金湯の固きも【ゾク】に非ざれば守らず
狗猪	1916 【クチョ】も其の余を食わず
三端	1917 君子は【サンタン】を避く
閭	1918 慶者堂に在り、弔者【リョ】に在り
悍虜	1919 巖家には【カンリョ】無し
原憲	1920 【ゲンケン】の貧
鴻溝	1921 【コウコウ】を分かつ
五噫	1922 【ゴイ】を歌う
溢	1923 江河の【イツ】は三日に過ぎず
簧	1924 巧言【コウ】の如し、顔之厚し
膏燭	1925 【コウショク】は明を以て自ら鑠す

鴻漸	1926 【コウゼン】の翼
觥飯	1927 【コウハン】も壺飧（こそん）に及ばず
合浦	1928 【ゴウホ】の珠還る
御器	1929 【ゴキ】も持たぬ乞食
黄狗	1930 狐裘弊ると雖も補うに【コウク】の皮を以てすべからず
枯魚	1931 【コギョ】河を過ぎて泣く
鼓琴	1932 【コキン】の悲しみ
鵠	1933 【コク】は浴せずして白し
朱椀	1934 乞食に【シュワン】
薄伎	1935 財を積む千万なるも【ハクギ】身に在るに如かず
枯骸	1936 餓狗【コロ】を齧む
至貴	1937 【シキ】は爵を待たず
餐飯	1938 努力【サンハン】を加えよ
辞讓	1939 【ジジョウ】の心は礼の端なり
餓鴟	1940 【ガシ】の叫び
漆膠	1941 【シッコウ】の契り
炙	1942 【シャ】を欲する色
充閭	1943 【ジュウリョ】の慶
葉公	1944 【ショウコウ】の竜
醴	1945 小人の交わりは甘きこと【レイ】の若し
誦数	1946 【ショウスウ】以て之を貫く
傷悲	1947 少壯にして努力せずんば老大にして乃ち【ショウヒ】せん
正法	1948 【ショウボウ】に不思議なし
蕉鹿	1949 【ショウロク】の夢
鐘	1950 【ショウ】を聞いて日と為す

譖 譖	1951 浸潤の【シン】
薪燎	1952 【シンリョウ】を積むが若し
隴山	1953 【ロウザン】雲暗し
錐刀	1954 【スイトウ】を以て太山を墮つ
駢	1955 【スイ】逝かず
衾枕	1956 酔い来たりて空山に臥せば、天地は即ち【キンチン】なり
寸膠	1957 【スンコウ】は黄河の濁を治する能わず
濟勝	1958 【セイショウ】の具
析薪	1959 【セキシン】を負う
癰	1960 千鈞の弩を以て【ヨウ】を潰す
鷓	1961 千雀万鳩【ヨウ】と仇を為す
山藪 山藪	1962 川沢汗（お）を納れ【サンソウ】疾を蔵す
宗祇	1963 【ソウギ】の蚊帳
叢輕	1964 【ソウケイ】軸を折る
桑中	1965 【ソウチュウ】の喜び
甌	1966 【ソウ】を落として顧みず
莠	1967 苗の【ユウ】有るが若し
蹲鴟	1968 【ソンシ】を悪鳥と為す
兔徑 兔徑 兔徑	1969 大象【トケイ】に遊ばず
牛蹄	1970 【ギユウテイ】の涔（しん）には尺の鯉無し
頽魄 頽魄	1971 【タイハク】再び円かならず
象	1972 太平【ショウ】無し
怯	1973 大勇は【キョウ】なるが如し
鐸	1974 【タク】は声を以て自ら毀る
好鬚	1975 惟【コウシュ】を称するのみ

桂	1976 玉を食らい【ケイ】を炊ぐ
匡衡	1977 【キョウコウ】は学に勤めて燭なし
虹梁	1978 箸に【コウリョウ】
鄭家	1979 【テイカ】の奴は詩をうたう
飄瓦	1980 怒気ある者も【ヒョウガ】は咎めず
吞鉤 吞鉤 吞鉤 吞鉤	1981 【ドンコウ】の魚は飢えを忍ばざるを嘆く
一鶚	1982 鷲鳥百を累ぬるも【イチガク】に如かず
南華	1983 【ナンカ】の悔い
駝	1984 南人【ダ】を夢見ず北人象を夢見ず
二鼠	1985 【ニソ】藤を嚙む
潰癩	1986 千鈞の弩を以て【カイヨウ】を射る
年劫	1987 【ネンゴウ】の兎
離披	1988 花を賞するに慎みて【リヒ】に至る勿れ
憐愛	1989 飛鳥人に依れば自ずから【レンアイ】を加う
焼亡	1990 人は盗人火は【ジョウモウ】
燧	1991 火を乞うは【スイ】を取るに若かず
鬢糸	1992 【ビンシ】茶烟の感
忻忻	1993 貧賤に戚戚たらず、富貴に【キンキン】たらず
蹇兔 蹇兔 蹇兔	1994 韓廬を馳せて【ケント】を逐う
三忘	1995 武士の【サンボウ】
平左	1996 平氣の【ヘイザ】
并州 并州	1997 【ヘイシュウ】の情
瓶中	1998 【ヘイチュウ】の氷を睹て天下の寒きを知る
丙丁	1999 【ヘイテイ】に付す
彭祖	2000 【ホウソ】の寿

庖丁	2001 【ホウテイ】 牛を解く
蒲	2002 【ホ】 を編む
肆	2003 不善人と居るは鮑魚の【シ】に入るが如し
賁諸	2004 【ホンショ】 錐刃を懐けども天下勇と為す
蔓草	2005 【マンソウ】 猶除くべからず
未萌 未萌	2006 明者は遠く【ミボウ】に見、智者は危を無形に避く
兼乗	2007 明珠【ケンジョウ】も未だ一言に若かず
鳴鐸	2008 【メイタク】は声を以て自ら毀る
巖牆 巖牆	2009 命を知る者は【ガンショウ】の下に立たず
縵縵 蔓蔓	2010 綿綿を絶たずんば【マンマン】を如何せん
錐刃	2011 賁諸【スイジン】を懐けども天下勇と為す
愨	2012 黙に過言無く【カク】に過事無し
木梗	2013 【モッコウ】の患い
豕交	2014 養って愛せざるは之を【シコウ】するなり
優孟	2015 【ユウモウ】の衣冠
鷹鳩	2016 【ヨウキュウ】変せず
養由	2017 【ヨウユウ】に弓を言う
予且	2018 【ヨシヨ】の患い
霄	2019 鸞鳳【ショウ】に沖するは必ず羽翼を仮る
賁諸	2020 利の在る所皆【ホンショ】たり
螻	2021 流水腐らず、戸枢【ロウ】せず
蚤甲	2022 利を争うこと【ソウコウ】の如くにして其の掌を失う
靈犀	2023 【レイサイ】一点通ず
已成	2024 吏たるに習わずば【イセイ】の事を視よ
漏甕	2025 【ロウオウ】を奉じて焦釜に沃ぐ

陸地	2026 【ロクジ】に舟漕ぐ
驢事	2027 【ロジ】未だ去らざるに馬事到来す
織織	2028 禍いは【センセン】より生ず
瀆 洗	2029 蓑を披て火を救い、【トク】を毀りて水を止む
子遺	2030 【ケツイ】あること無し
夸父	2031 【コホ】の日を追うよう
佞	2032 佞に【ネイ】す
牢	2033 【ロウ】として破るべからず
瘍疔	2034 【ヨウチョウ】百日
瑶池 瑤池	2035 【ヨウチ】に咲きし芙蓉
休咎	2036 善惡に従いて【キュウキュウ】あり
妾	2037 箕帚の【ショウ】
昏乱	2038 国家【コンラン】して忠臣あり
夜臥	2039 大廈千間【ヤガ】八尺
宦	2040 官は【カン】の成るに怠る
自屎	2041 【ジシ】臭きことを覚えず
巷伯	2042 【コウハク】の傷み
旧柯	2043 【キュウカ】花を生ぜず
炬	2044 【キョ】に付す
爰立	2045 【エンリツ】の命
盈丈	2046 【エイジョウ】の尾を見て咫尺の軀にあらざるを知る
魚缸	2047 天篷【ギョコウ】石榴樹
天篷	2048 【テンポウ】魚缸石榴樹
除胥	2049 其の人を憎まば其の【ジョシヨ】を憎む
紫陌	2050 青雲【シハク】の譏り

呵	2051 秃筆を【カ】する
倚馬	2052 【イバ】の才
倩	2053 巧笑【セン】たり、美目盼（へん）たり
中菁	2054 【チュウコウ】の言
冤仇 冤仇	2055 賞は【エンキュウ】を論ぜず、罰は骨肉を論ぜず
後凋 後彫	2056 【コウチョウ】の節
絮果	2057 会うや柳因、別るるや【ジョカ】
一埒	2058 【イチラツ】が済む
一饜	2059 【イチレン】の肉を嘗めて一鑊（いっかく）の味を知る
有涯	2060 【ウガイ】は秋の月
烏雲	2061 【ウウン】の陣
榜示	2062 上見れば【ボウジ】無し
甘餌	2063 魚のかかるは【カンジ】に由る
于公	2064 【ウコウ】門閭を高大にす
雲夢	2065 【ウンボウ】八九を呑む
肥瘠	2066 越人の秦人の【ヒセキ】を視るが如し
薤上	2067 【カイジョウ】の露
轄	2068 【カツ】を投ず
革靴	2069 【カッカ】を枉げる
矩鑿	2070 良工は【クサク】の中に漸（なら）う
夸父	2071 【カホ】日を追う
幢相	2072 解脱【ドウソウ】の衣
乱鬢	2073 髪結いの【ランビン】
裘	2074 大寒にして後【キュウ】を求む
款	2075 【カン】を通ず

漢宮	2076 【カンキュウ】の幻
諫鼓 諫鼓	2077 【カンコ】苔深くして鳥驚かず
桓山	2078 【カンザン】の四鳥
氷積	2079 渙然【ヒョウシャク】する
寛猛	2080 【カンモウ】相濟う
斗牛	2081 氣、【トギユウ】を貫く
聘	2082 儀を畏れて【ヘイ】を辞す
東閣	2083 【トウコウ】を開いて、以て賢人を延く
橋裏	2084 【キツリ】に山川を峙つ
貿首	2085 【ボウシュ】の讐
孟	2086 君は【ウ】の如く、民は水の如し
鳩車	2087 【キュウシャ】竹馬の友
牛喘	2088 【ギユウゼン】を問う
梟鸞	2089 【キョウラン】は翼を交えず
玉趾	2090 【ギョクシ】を挙ぐ
巾櫛	2091 【キンシツ】を執る
金屑	2092 【キンセツ】貴しと雖も眼に入つて翳となる
翳	2093 金屑貴しと雖も眼に入つて【エイ】となる
嶠	2094 虎【グウ】を負う
藕	2095 【グウ】断えて糸連なる
篤恭	2096 君子【トクキョウ】にして天下平らかなり
矜	2097 君子は【キョウ】にして争わず、群にして党せず
群蝨 群虱	2098 【グンシツ】禪中に処る
禪中	2099 群蝨【コンチュウ】に処る
涇	2100 涇（けい）は【イ】を以て濁る

荊公 荊公	2101 【ケイコウ】の字を解くが如し
輕塵	2102 【ケイジン】弱草に棲む
繼体	2103 【ケイタイ】の君
閨中	2104 【ケイチュウ】に威儀なし
輕漾	2105 【ケイヨウ】激して影唇を動かす
擊断	2106 【ゲキダン】して諱む無し
則闕 即闕	2107 【ソッケツ】の官
鷺	2108 鳳鳴いて【シ】翰（はばた）きす
隻鳧 隻鳧	2109 【セキフ】の別れ
暄	2110 【ケン】を負う
兩錯	2111 權は【リョウソ】せず政は二門せず
懸車	2112 【ケンシャ】の年
健奴	2113 【ケンヌ】は必ず無礼なり、驕る子は必ず不孝なり
觚	2114 【コ】を破り、雕を斲（けず）る
膏	2115 【コウ】は明を以て焚かる
槁	2116 【コウ】を折き落を振るう
抗顔	2117 【コウガン】師と為る
衡山	2118 【コウザン】の雲を開く
項斯	2119 【コウシ】を説く
勾踐	2120 【コウセン】の本意
劫藹 劫藹 劫臘	2121 【コウロウ】を経る
枯寂	2122 【コジャク】の空
虎髯 虎髯	2123 【コゼン】を引き損ねる
雜餉 襟餉	2124 【ザッショウ】を構える
不爛	2125 三寸【フラン】の舌

虚諺	2126 いにしえ【キョゲン】無し
海硯	2127 山筆【カイケン】にも及び難し
袍	2128 子と【ハウ】を同じくせん
曲鍼	2129 磁石は【キョクシン】を受けず
赭衣	2130 【シャイ】路に塞がる
愁猴	2131 【シュウコウ】が手を出だし斑狼が涙
拙縫	2132 姑に【セツポウ】なし
細嚼	2133 書を読むには須く熟読すべし、菜根は須く【サイシャク】すべし
大嚼	2134 屠門を過ぎて【タイシャク】す
屠門	2135 【トモン】を過ぎて大嚼す
牆 墻	2136 【ショウ】を負いて立つ
燭寸	2137 【シヨクスン】の詩
仕埒	2138 【シラチ】を分ける
二竜	2139 【ジリョウ】の闘い
隍	2140 城【コウ】に復る
蚊睫	2141 焦螟【ブンショウ】に集まる
焦螟	2142 【ショウメイ】蚊睫に集まる
燻腐 熏腐	2143 【クンプ】の余
棘木	2144 【キョクボク】の聴
椳	2145 棟折れ【スイ】崩る
晋秦	2146 【シンシン】の好
針縷	2147 【シンル】に順う者は帷幕を成す
針錐	2148 痛処に【シンスイ】を下す
箴末	2149 離朱の明は【シンマツ】を百歩の外に察すれども淵中の魚を見る能わず
漸	2150 【ゼン】を杜じ、萌を防ぐ

阜	2151 其の【フ】に考訊して出さば則ち怨靖からん
垂棘	2152 青蠅も【スイキョク】を穢す能わず
堂陞	2153 千金の子【ドウスイ】に坐せず
盧橘	2154 楓葉衰えて【ロキツ】花開く
辺烽	2155 【ヘンポウ】の急
矯	2156 制を【タ】む
鼎足	2157 【テイソク】の勢い
祖逖	2158 【ソテキ】の誓い
荼薺	2159 【トセイ】は畝を同じくせず
祖生	2160 【ソセイ】の先鞭
臙 臙 臙	2161 【ロウ】寿の二つを積む
刹鬼 殺鬼	2162 無常の【セッキ】
回雪 廻雪	2163 【カイセツ】の袖
厲	2164 婦に長舌あるは維【レイ】の階
蓬箭	2165 麻矢は直く【ハウセン】は曲がれり
遷喬	2166 【センキョウ】の楽しみ
疎懶	2167 民【ソラン】の情を懐けば七歳蝗損に遇う
蝗損	2168 民疎懶の情を懐けば七歳【コウソン】に遇う
燥	2169 薪を均して火を施せば火は【ソウ】に就く
叢蘭 草蘭	2170 【ソウラン】茂らんと欲し秋風之を敗る
麋	2171 【ビ】を逐うの狗は当に兔を顧みるべけんや
沈竈 沈竈	2172 【チンソウ】蛙を産す
貪者	2173 錢財積まざれば則ち【タンシャ】憂う
家賊	2174 【カゾク】防ぎ難し
己心 己身	2175 【コシン】の弥陀

明駝	2176 【メイダ】千里の足
紋体	2177 【モンタイ】が無い
対対	2178 人は花実【タイタイ】
一鶏	2179 月に【イッケイ】を攘み以て来年を待つ
玄圃	2180 燕石を裏み、【ゲンポ】を履み、魚目を帯びて漲海に遊ぶ
漲海	2181 燕石を裏み、玄圃を履み、魚目を帯びて【チョウカイ】に遊ぶ
交態	2182 一貧一富乃ち【コウタイ】を知る
燕雁 燕鴈	2183 【エンガン】代わって飛ぶ
燕台	2184 【エンダイ】の召し
瞎馬	2185 盲人【カツバ】に騎りて夜半に深池に臨む
槃特	2186 【ハンドク】が愚痴も文殊の知恵
騎竹	2187 【キチク】の交わり
畜聚 蓄聚	2188 【チクシュウ】の臣
疾足	2189 高材【シツソク】の者
面誉	2190 【メンヨ】は忠にあらず
蟻蝨 蟻虱	2191 介冑【ギシツ】を生ず
介冑	2192 【カイチュウ】蟻蝨を生ず
衷	2193 服の【チュウ】ならざるは身の災いなり
本非	2194 百服の【ホンピ】
殤	2195 無服の【ショウ】
趨舍	2196 【スウシャ】時あり
椿葉	2197 【チンヨウ】の影再び改まる
鳩鳥	2198 【チンチョウ】海に隠れて鯨を害す
狂狗	2199 【キョウク】塊を追う
告訐	2200 【コッケツ】の風は長ずべからず

一瓶	2201 一種【イッペイ】は亭主の課役
二庭	2202 【ニテイ】を踏む
程朱	2203 【テイシュ】の学
鄭白	2204 【テイハク】の衣食に飽く
鵠	2205 【テイ】翼を濡らさず
糴	2206 百里樵を販がず千里【テキ】を販がず
樵	2207 百里【ショウ】を販がず千里糴を販がず
塵点	2208 過去【ジンテン】の如し
鷹鷲	2209 【ヨウシュウ】山を以て卑しと為して巢を其の上に増す
郵船	2210 渡口の【ユウセン】は風静まって出ず
怒貌	2211 【ドゲイ】の石を抉るが如し
驚犬	2212 両虎相闘って【ドケン】其の弊を受く
深壑	2213 湍水の【シンガク】に赴くが若し
堂構	2214 【ドウコウ】を紹ぐ
銅脈	2215 【ドウミヤク】食わす
特石	2216 錦に【トクセキ】を包む
風草	2217 【フウソウ】の徳
犢	2218 刀を売り【トク】を買う
麟喩	2219 【リンユ】の独覚
頓	2220 鳳凰【トン】に家鴨と変ず
車薪	2221 一杯の水を以て【シャシン】の火は救い難し
式	2222 賢に任ずるに【ニ】する勿れ
成毀	2223 物の【セイキ】は、亦た自ら定数あり
綾袖	2224 【リョウシュウ】能く舞う
陽侯	2225 【ヨウコウ】の波

鼠首	2226	【ソシュ】事を破る
一榻	2227	【イットウ】の外、皆他人の家なり
策媒 策配	2228	【サクバイ】がつかぬ
變和	2229	【ショウカ】の官
帷薄	2230	【イハク】修まらず
隆車	2231	蟻螂が斧を怒らせて【リュウシャ】に向かう
肌骨	2232	涙【キコツ】を絞る
綿蛮	2233	【メンバン】たる黄鳥丘隅に止まる
鳳逸	2234	竜蟠【ホウイツ】の士
老槐	2235	【ロウカイ】悲しむ
斧質	2236	【フシツ】に伏す
部婁	2237	【ホウロウ】には松柏無し
兩驂	2238	【リョウサン】舞うが如し
副急	2239	【フッキュウ】の涙
狐媚	2240	孤兒寡婦を欺き、【コビ】して以て天下を取るに効わず
針妙	2241	袖は【シンミョウ】の半仕事
莫作	2242	諸悪【マクサ】諸善奉行
慎莫 身莫	2243	【シンマク】に負えぬ
齊魯	2244	【セイロ】の学
包公	2245	【ホウコウ】が笑み
楊宝	2246	【ヨウホウ】黄雀の病を扶く
雍齒	2247	【ヨウシ】が功を先とす
楊震	2248	【ヨウシン】の四知
彭蠡	2249	【ホウレイ】の浜には魚を以て犬に食らわしむ
鴝羽	2250	【ホウウ】の嗟き

鵬	2251 斥鴳（せきあん）が【ホウ】を笑う
忙裏	2252 【ボウリ】閑を偷む
嘲斎坊	2253 【チョウサイボウ】にする
濫妨 乱妨	2254 【ランボウ】の取り残し
蚌	2255 【ボウ】を煮て珠の爛るるを知らず
望雲	2256 【ボウウン】の情
望洋	2257 【ボウヨウ】の嘆
一擲 一掴	2258 一棒一条痕【イッカク】一掌血
貌	2259 人を取るに【ボウ】を以てす
燕翼	2260 【エンヨク】の謀
葵菜	2261 蓼虫【キサイ】に徙るを知らず
犁星	2262 河、角を射れば夜作に堪え、【リセイ】没すれば水骨を生ず
敗鼓	2263 牛溲馬勃【ハイコ】の皮
翻倒 飜倒	2264 鉄桶を【ホントウ】す
桑麻	2265 【ソウマ】の交
繡了 繡了	2266 鴛鴦【シュウリョウ】して君の看るに従（まか）す
違乱	2267 【イラン】は未練の相
口血	2268 【コウケツ】未だ乾かず
陵土	2269 【リョウド】未だ乾かず
大羹	2270 【タイコウ】は和せずして遺味あり
修遠	2271 比近説ばざれば【シュウエン】を務むる無かれ
比近	2272 【ヒキン】説ばざれば修遠を務むる無かれ
無累	2273 【ムルイ】の人
鬚眉	2274 目、鏡を失えば以て【シュビ】を正すこと無し
臍次 臍次 臍次	2275 【ラッシ】も無い

昭名	2276 陰行あれば【ショウメイ】あり
窮通	2277 【キュウツウ】各命有り
佐命	2278 【サメイ】の士
離婁	2279 【リロウ】が明
面牆 面墻	2280 【メンショウ】の譏り
強盜	2281 博奕博勞掬摸【ガンドウ】
節所 切所 殺所	2282 猛勢【セッショ】なし
耳目	2283 遠人に【ジボク】なし
宿執	2284 【シュクジュウ】に目の潰るる
冶容	2285 慢蔵は盗を誨え、【ヤヨウ】は淫を誨う
慢蔵	2286 【マンゾウ】は盗を誨え、冶容は淫を誨う
暢師坊	2287 【チョウシボウ】の夜の聞き
君臣佐使	2288 【クンシンサシ】の薬
五湖	2289 【ゴコ】に薬を売る
輸写	2290 心腹を【ユシヤ】す
方外	2291 【ホウガイ】の友
花時 花時	2292 緑陰幽草、【カジ】に勝る
牖下	2293 【ユウカ】に死す
輿馬	2294 【ヨバ】を仮る者は足を勞せずして千里を致す
中天	2295 珍事【チュウヨウ】時の過ち
江海	2296 浴は【コウカイ】を必とせず、之が垢を去るを要す
衆曲	2297 【シュウキョク】は直を容れず
習習	2298 【シュウシュウ】たる谷風、以て陰（くも）り以て雨降る
咸陽宮	2299 【カンヨウキュウ】も滅ぶ時は滅ぶ
陽台	2300 【ヨウダイ】の夢

粹様	2301 暗がり様は【スイサマ】
踊	2302 屨（く）賤しく【ヨウ】貴し
養花	2303 【ヨウカ】の天
蠅子 蠅子	2304 【ヨウシ】驥尾に付く
焦釜	2305 漏甕を奉じて【ショウフ】に沃ぐ
浴沂	2306 【ヨクキ】の楽しみ
欲炙	2307 【ヨクシャ】の色
卵翼	2308 【ランヨク】の恩
女羅 女蘿	2309 兔糸【ジョラ】に付く
羅浮	2310 【ラフ】の夢
風雨震雷	2311 【フウウシンライ】は天地の御政事
疊	2312 餅（へい）の罄（つ）くるは維【ライ】の恥
楓	2313 【フウ】呉江に落つ
庭階	2314 芝蘭玉樹【テイカイ】に生ず
利生	2315 罰も【リショウ】もある
沙裏	2316 一寸の光陰は【シャリ】の金
程門	2317 【テイモン】雪に立つ
挾書	2318 【キョウショ】の律
流矢	2319 白刃前に交われば【リュウシ】を顧みず
竜蛇	2320 深山大沢【リュウジャ】を生ず
大沢	2321 深山【ダイタク】竜蛇を生ず
胡地	2322 王昭君が【コチ】の旅
大理	2323 鵲【ダイリ】の庭に巣くう
梁柱	2324 蠹啄みて【リョウチュウ】を剖く
獵禽	2325 【リョウキン】尽きて走狗煮らるる

匹馬	2326 【ヒツバ】 隻輪も反るなし
隻輪	2327 匹馬【セキリン】も反るなし
比隣	2328 天涯【ヒリン】の如し
斑狼	2329 愁猴が手を出だし【ハンロウ】が涙
千行	2330 【センコウ】の涙
運上	2331 累（かさね）の面から【ウンジョウ】を取る
累土	2332 九層の台は【ルイド】より起こる
齊眉	2333 【セイビ】の礼
靈蛇	2334 【レイダ】の珠
連鷄	2335 【レンケイ】俱に棲に止まる能わず
紅炉上	2336 【コウロジョウ】一点の雪
金牛	2337 【キンギュウ】を駆りて路を開く
熟路	2338 軽車の【ジユクロ】に付くが如し
賢路	2339 【ケンロ】を避く
魯衛	2340 政は【ロエイ】の如し
魯般	2341 【ロハン】が雲
廬	2342 【ロ】に当たる
鳴鶴	2343 【メイカク】陰に在り其の子之に和す
勢利	2344 【セイリ】の交わり
板板	2345 上帝【ハンハン】として、下民卒（ことごと）く瘡（や）む
上客	2346 焦頭爛額を【ジョウカク】と為す
端木	2347 【タンボク】、金を辞す
不予	2348 【フヨ】の色
陵	2349 日に【リョウ】し月に替す
驢子	2350 詩思は灞橋（はきょう）風雪の中、【ロシ】の上に在り

蔬筍 蔬笋	2351	【ソジュン】の氣
斑衣	2352	【ハンイ】の戯れ
不刊	2353	【フカン】の書
丹石	2354	【タンセキ】の心
陽春	2355	脚の有る【ヨウシュン】
宥坐	2356	【ユウザ】の器
綫 線	2357	絶えざること【セン】の如し
蜚蓬	2358	【ヒホウ】の問い
沢梁	2359	【タクリョウ】禁無し
潘楊	2360	【ハンヨウ】の好
滑疑	2361	【コツギ】の耀
滋蔓 滋曼	2362	【ジマン】凶り難し
流翠 流翠	2363	【リュウスイ】滴らんと欲す
油幕	2364	【ユウバク】の遊び
冲漠	2365	【チュウバク】無睨（むちん）万象森然
犀甲	2366	水に竜舟を断ち、陸に【サイコウ】を剗（き）る
魏闕	2367	身は江海の上に在り、心は【ギケツ】の下に居る
瓦缶	2368	心曠ければ則ち万鍾も【ガフ】の如し
一晨	2369	槿花【イッシン】の栄え
啓処	2370	【ケイショ】するに違あらず
藏鋒	2371	【ゾウホウ】を貴ぶ
簪裾	2372	一竿の竹、【シンキョ】に換えず
篡 篡	2373	周公恐懼す流言の日、王莽謙恭す未だ【サン】せざるの時
補苴	2374	罅漏を【ホショ】し、幽眇を張皇す
張皇	2375	罅漏を補苴し、幽眇を【チョウコウ】す

幽眇	2376 罅漏を補苴し、【ユウビョウ】を張皇す
青芻 青藜	2377 奴には白飯を与え、馬には【セイスウ】
戎軒	2378 筆を投じて【ジュウケン】を事とす
天衢	2379 鱗を清流に濯い、翼を【テング】に飛ばす
竿上	2380 阮咸は【カンジョウ】の禪を手向く
萌 蒨	2381 漸を杜じ、【ボウ】を防ぐ
考訊	2382 其の阜に【コウジン】して出さば則ち怨靖からん
湍水	2383 【タンスイ】の深壑に赴くが若し
矯矯	2384 竜あり【キョウキョウ】たり、頃く其の所を失う
菽	2385 悠長の趣は、醜醜（のうげん）に得ずして、【シュク】を啜り水を飲むに得
嚼蠟 嚼蠟	2386 名利は飴のごとく甘けれども、一たび死地に想い到れば、便ち味は【シャクロウ】の如し
廊廟	2387 【ロウビョウ】の器
虚器	2388 【キョキ】を擁す
盛筵	2389 勝地は常ならず、【セイエン】は再びし難し
荊杞 荆杞	2390 千村万落【ケイキ】を生ず